

年報
2024 年度



東京医療保健大学 立川看護学部

TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY
Tachikawa Faculty of Nursing

2024 度 年報

目次

卷頭言	・ ・ ・ ・ ・	1
1. 組織図	・ ・ ・ ・ ・	2
2. 学内行事	・ ・ ・ ・ ・	3
3. 入試状況	・ ・ ・ ・ ・	9
4. 教職員名簿	・ ・ ・ ・ ・	12
5. 委員会活動	・ ・ ・ ・ ・	14
6. 教育活動	・ ・ ・ ・ ・	20
7. 業績	・ ・ ・ ・ ・	47

巻頭言

2024年度は大学の中期計画第四期の3年目に入り、期中の折り返し地点となっている。これまでの間、立川看護学部では1年ごとに確実な計画実行がなされてきた。令和5年6月16日付閣議決定された第4期教育振興基本計画に掲げられている主な項目においても、立川看護学部における通常活動の延長線上にあるものとして取り組むことができている。

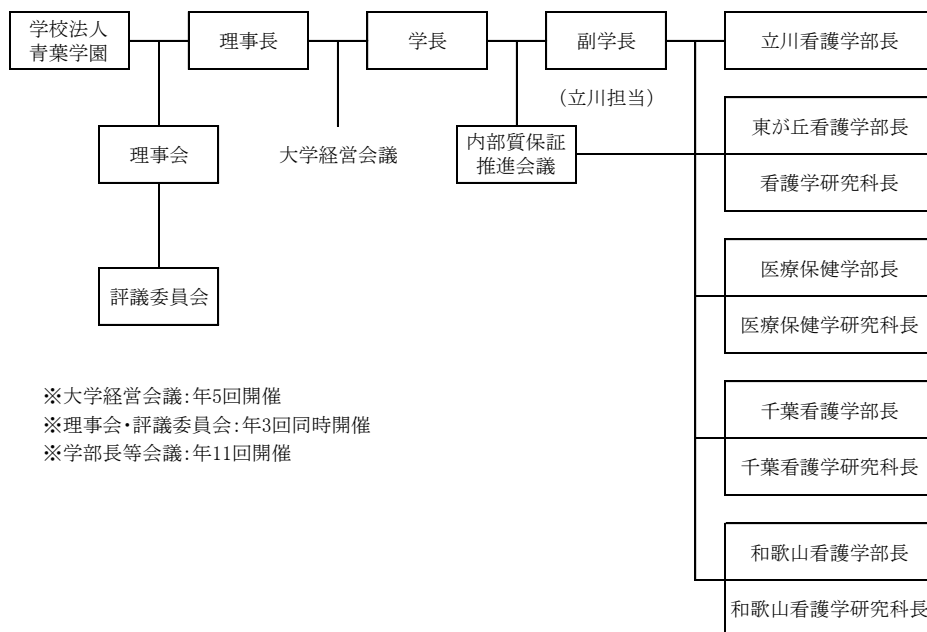
特に、今年度は教学マネジメントのPDCAを回すための具体として、DPに定められた資質・能力を身につけるための到達度分析から改善策の実施まで取り組んできた。分析の視点を、1. 科目担当者、カリキュラム検討委員会、教授会による段階的到達度の評価・検討・分析の実施、2. ICTツール等を活用した学修サイクルと学修成果の可視化、3. 教授会、委員会、学年担任の連携による学修支援の展開、4. 非常勤講師の担当科目の達成度の分析と非常勤講師へのフィードバックの4点におき、検討の結果取り組むべき課題として高大接続での学力補強や学習態度、専門基礎分野科目の学力強化に着目し、初年次教育計画やコンタクトグループによる学習計画支援など、それぞれ改善策を図った。さらに、実習ではICTツール活用での学習効率向上、学修成果の可視化に実習評価の標準化を図る取り組みにつなげた。これらには多々ある実習施設から80人の管理者や実習指導者に評価会に参加頂き、多様な関係者からの評価を得ることができた。研究における外部資金獲得や公開講座等の社会貢献関連にも積極的に取り組み、大変活発な活動が行われてきた。

次年度はこの活動を維持するとともに、学修成果の可視化において学生が自己の振り返りにポートフォリオを活用できることを計画することとしたい。実効性が高く、さらに次の改善へつなげる持続的な取り組みを行う教職員の尽力に感謝申し上げる。

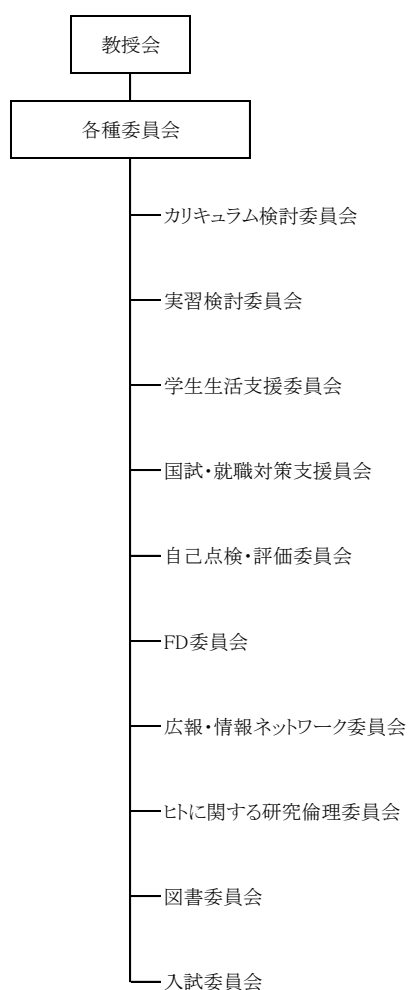
令和7年4月3日

立川看護学部 学部長
長 田 恵 子

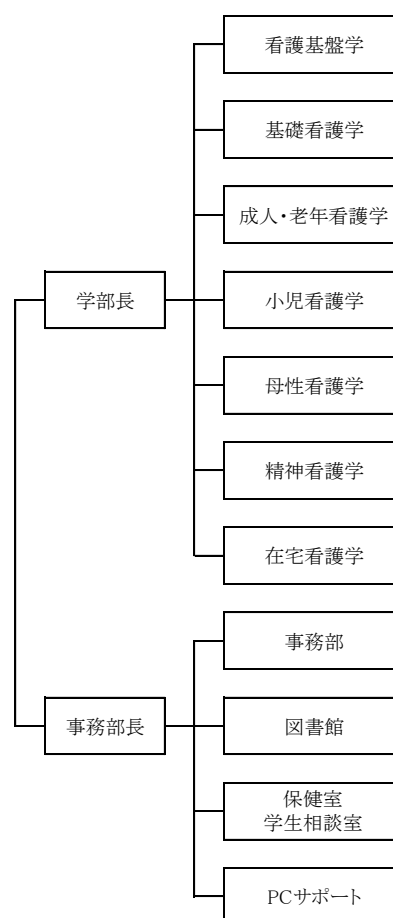
1. 組織図



立川看護学部の運営組織



【教員組織】



2. 学内行事

2-1. 学年暦

【 前 期 】

4 月

- 1 日 学内オリエンテーション(～5)、新入生
ガイダンス
- 2 日 健康診断
- 3 日 入学式
- 5 日 コンタクトグループ
- 8 日 前期授業開始
- 26 日 新入生合同研修

5 月

- 13 日 在宅看護学実習(～6/21)
- 17 日 スポーツ大会

6 月

- 2 日 オープンキャンパス
- 3 日 看護過程展開実習(～6/14)
- 25 日 オープンキャンパス

7 月

- 1 日 看護学体験実習(～7/5)
- 8 日 看護学統合実習(～7/19)
- 25 日 災害看護学実習

8 月

- 3 日 看護学統合実習(7 日)
- 6 日 来校型 学科見学会
- 17 日 各論実習－母性看護学実習等
(～7/2/5)
- 18 日 オープンキャンパス
- 25 日 夏季休業開始(～9/30 まで)

9 月

- 2 日 老年看護学実習(～9/13)
- 20 日 災害訓練(災害看護学実習)
- 22 日 入試説明会(総合型選抜)

【 後 期 】

10 月

- 1 日 後期授業開始
- 13 日 総合型入学試験

11 月

- 9 日 公開講座
- 17 日 学校推薦型入学試験(指定校・公募制)
- 20 日 入試相談会

12 月

- 1 日 開学記念日
- 7 日 WEB 入試説明会
(一般選抜入試説明会～R6/2/16)
- 11 日 入試相談会
- 24 日 コンタクトグループ
- 28 日 冬季休業開始(～R7/1/3)

1 月

- 6 日 日常生活援助展開実習(～1/17)
- 18 日 災害訓練
- 24 日 一般選抜入学試験(A 日程)
- 25 日 一般選抜入学試験(B 日程)

2 月

- 7 日 看護師国家試験壮行会
- 9 日 一般選抜入学試験(C 日程)
- 16 日 看護師国家試験日
- 23 日 一般選抜特別日程入学試験
- 25 日 就職支援講座(～2/26)

3 月

- 12 日 学位記授与式・修了式
- 23 日 オープンキャンパス

2-2. 6月 来校型 オープンキャンパス

【概要】

本学部の情報と2023年度および2024年度の入試に関する最新情報を提供することを目的に開催した。事前予約制として参加者人数を制限し、感染対策を徹底した。

【実施日時】

2024年6月2日(日)①第1部 9:30～12:00 ②第2部 14:00～16:00

【プログラム】

Part1:

- ・学部長挨拶
- ・カリキュラム説明を中心とした学部説明
- ・在学生メッセージ
- ・入試説明

Part2:

- ・模擬授業A「見えない敵から身を守れ～感染の成立と予防について～」15分×2回
- ・模擬授業B「行動変容をうながす看護～ナッジ理論を知ろう！～」15分×2回
- ・現役学生と教員が答えます(個別相談)
- ・キャンパス見学(自由見学)

【参加者】

183組

2-3. 8月オープンキャンパス(首都圏 看護学科)

【概要】

学部に関心のある高校1年生から3年生に広く本学部を紹介するために、参加者体験型のオープンキャンパスを開催した。豊富で多様な企画により、参加者が模擬授業や模擬演習を体験したり、在校生と交流するなど本学部の使命、特徴、学びを知ることができることを目指した。

【実施日時】

2024年8月18日(日)8:30～17:00

【プログラム】

Part1

学部説明(オープンキャンパス必須共通プログラム)

- ・学部長挨拶
- ・学部・学科説明
- ・在学生メッセージ(受験体験談)

Part2

- ・模擬授業「災害時の看護師の役割」20分×4回
- ・模擬演習「母性看護を体験してみよう」赤ちゃんのオムツを交換してみよう等
「VR体験」子どものバイタルサイン

- ・個別相談
- ・病院見学(独立行政法人国立病院機構 災害医療センター)
- ・サークル体験(救命救急サークル ACT)
- ・卒業研究ポスター掲示
- ・卒業生との交流
- ・おしゃべりキャンディカフェ

【参加者】

426 組

2-4. 入試説明会

【概要】

本学部の総合型選抜、学校推薦型選抜試験の受験を希望する高校生に向けて入試情報を提供することを目的に開催した。

【実施日時】

- ・2024 年 9 月 22 日(日) 10:00～12:00、13:00～15:00

【プログラム】

- ・全体会 ①10:00～12:00 ②13:00～14:00
- ・学科説明 「求める人物像」(アドミッションポリシー)について
- ・入試説明&総合型選抜、学校推薦型選抜のポイント説明
- ・学生メッセージ2名(総合型選抜、学校推薦型選抜各1名)
- ・個別相談／教員相談

【参加者】

99 組

2-5. 入試相談会

【概要】

6月、8月のオープンキャンパスや入試説明会に参加できなかった高校生に、本学部と入試情報を提供することを目的に開催した。

【実施日時】

- ・2024 年 11 月 20 日(水) 16:30～17:30
- ・2024 年 12 月 11 日(水) 16:30～17:15

【プログラム】

学部学科説明、2024 年度入試結果&2025 年度入試概要説明
(一般選抜/大学入試共通テスト利用入試)個別相談

【参加者】

高校生・受験生・保護者を合わせ延べ組 22 組が参加。

2-6. WEB 入試説明会～一般選抜～(首都圏)

【概要】

東京医療保健大学全体で行う一般選抜受験を希望する高校3年生、2年生者向けの入試説明会として、WEB で実施した。

【公開日時】

2024 年 12 月 6 日(金)12:00～2025 年 2 月 7 日(金)22:00

【プログラム】

- ・一般選抜科目別対策講座
- ・学科説明
- ・入試概要説明(一般選抜)
- ・学生からのメッセージ(受験体験談・大学生活について)

【参加者】

閲覧数 190 人

2-7. 3 月春のオープンキャンパス

【概要】

看護に関心のある高校生、進路を決めかねている新2年生、新3年生の高校生に対し、看護とこれを目指す人材を育成する本学部の方針や教育内容を紹介することを目的に開催した。

【実施日時】

2025 年 3 月 23 日(日) 9:00～17:00(① 9:30～12:00、② 13:30～16:00 の 2 部制)

【全体会プログラム】

- ・オープニングビデオ(①9:30～9:35 ②13:30～13:35)
- ・学部長挨拶(①9:35～9:50 ②13:35～13:50)
- ・学部学科説明(①9:50～10:10 ②13:50～14:10)
- ・在学生メッセージ(①10:10～10:20 ②14:10～14:20)
- ・入試説明、アンケート・ノベルティ説明(①10:20～10:35 ②14:20～14:35)
- ・学部体験説明、PPT(①10:35～10:37 ②14:35～14:37)

イベントを体験しない参加者はアンケート記入・ノベルティを受け取って帰宅

【学部体験】※自由参加(①AM10:40～12:00 ②PM14:40～16:00)

- ・模擬講義(1回 30 分)「看護の魅力とは」

AM①10:40～ ①' 11:20～ PM②14:40～ ②' 15:20～

- ・模擬演習「避難所に来た人の気持ちを知ろう」

AM①10:40～11:50 PM②14:40～15:50

- ・個別ブース(刑ブース)過去問題配布コーナー

AM①10:40～11:50 PM②14:40～15:50

- ・自由にキャンパスをみてみよう！

AM①10:40～11:50 PM②14:40～15:50

ルート:本館教室 1F～2F～図書館～キャリアアップコーナー～第一別館 1F 学生食堂
(食事風景・調理風景の写真展示)

【参加者】

高校生・受験生・保護者を合わせ延べ 76 名が参加。

2-8. 公開講座(立川市と共催)等の開催(FD 企画を含む)

- ① 2024 年 5 月 25 日(木)15:05 ～ 16:05 第二別館 2 階 T2201 or Zoom
○対象者:全教職員
○テーマ:「変革に時代に適応するための急性期病院の取り組み・課題」
○講師:亀山周二学長:東京医療保健大学(前 NTT 東日本関東病院 院長)
- ② 2024 年 6 月 27 日(木)16:20 ～ 17:50 第二別館 2 階 T2201
○対象者:全教職員
○テーマ:「教学マネジメントに基づいた実習評価について」
○講師:宍戸路佳准教授
- ③ 2024 年 8 月 27 日(月)14:00 ～ 16:20 本館 2 階 TM203
○対象者:立川看護学部教員
○テーマ:「コンピテンシー基壇教育に実現に向けた取り組み」
○講師:東京医療保健大学医療保健学部基礎看護学教授 西村礼子先生
- ④ 2024 年 8 月 26 日(月)10:00 ～ 15:00 第二別館 T2201 教室
○プログラム:夏休みの企画:「アロマでせっけんづくり」
○対象者:小学生と保護者 30 名限定
○講師:久保恭子教授、宍戸路佳准教授、濱寄信恵助教
- ⑤ 2024 年 9 月 26 日(木)10:40 ～ 12:10 第二別館 T2201
○対象者:立川看護学部教員
○司会進行:村松先生
○テーマ:(ア)教育マネジメント指針に基づく授業運営にあたり、修学カルテ(ポートフォリオ)と科目ルーブリック(講義、演習科目)の運用方法について共通理解をはかる。
(イ)学部運営並びに教員の PDCA を円滑に行い、教育の拡充に役立つ運用方法の共通認識及び意見交換を行う。
○講師:久保恭子教授先生、宍戸路佳准教授、堀田省吾講師、
○講評:長田恵子副学長

⑥ 2024 年 11 月 9 日(土) 10:00 ～ 11:30 本館体育館

○対象者:18 歳以上の方(来場は 50 名程度)

○テーマ:「脳を活性化して生涯健康な脳を維持しよう！」

○講師:牧 千亜妃 :東京医療保健大学 准教授

○形式:対面(来場者数 91 組)

⑦ 2025 年 2 月 20 日(木)10:30 ～ 12:00 第二別館 2 階 T2201

○対象者:全教員

○テーマ:「講義・演習のルーブリック評価について」

○講師:教学マネジメント・可視化担当 堀田省吾講師

2-9. 学友会活動

1)スポーツ大会

学友会の全学行事である、スポーツ大会が5月17日(金)に、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で開催された。当日は、亀岡学長にご挨拶で開会式を行い、学生がエントリーした団体対抗で3競技を行った。全て団体競技のため、チームワークの良い真剣勝負が続き、各キャンパスの応援の大変盛り上がり、参加した学生にとっては楽しい1日となった。朝から夕方まで昼食付の全日スケジュールで行い、各キャンパスから合計 231 名が参加した。

2)大学祭(医愛祭)第18回大学祭(首都圏キャンパス)を9月28日(土)10:00～16:30

9月29日(日)10:00～15:30に五反田キャンパスで開催しました。今年度は、開催地の変更、公開講座との共同開催という初の試みの医愛祭となりました。今年のテーマは「環・わ」でした。当日は両日、天候にも恵まれて、地域の方々もたくさん来学いただきました。来場者は両日合わせて約1,000名の来場者があり、学生・教職員のみならず卒業生、保護者、高校生そして地域の方々にも本学の学びや各種活動の成果に触れていただくことができました。

3. 入試状況

3-1. 2025 年度入学者選抜状況

概 要

立川看護学部看護学科については、入学者選抜の概略は以下のとおりである。

入試種別	志願者数	合格者数	入学者数	定員	定員充足率
総合型	86 名(88 名)	23 名(21 名)	23 名(21 名)	10 名(8 名)	230%(266%)
推薦	66 名(75 名)	50 名(51 名)	50 名(50 名)	38 名(38 名)	132%(132%)
一般	552 名(439 名)	214 名(131 名)	62 名(44 名)	52 名(54 名)	119%(81.4%)
計	704 名(602 名)	287 名(203 名)	135 名(115 名)	100 名(100 名)	135%(115%)

※カッコの数字は前年実績

○ 推薦入試【専願可】

1) 総合型選抜

(1) 対象

本学を第一志望（専願）とし、下記の入学資格に該当する者 2025 年 3 月に高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）を卒業見込みで、3 年次 1 学期または 3 年次前期までの調査書を提出できる者

(2) 選抜方法

事前課題レポート・自己推薦書・面接を総合的に評価する

○ 学校推薦型選抜

1) 指定校推薦

(1) 対象

本学を第一志望する（専願）とし、下記①と②に該当する者

①2025 年 3 月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が3.8以上の者

(2) 選抜方法

調査書(点)・総合問題(点)・面接(点)を総合的に評価する

2) 公募制推薦

(1) 対象

本学を第一志望する(専願)とし、下記①と②に該当する者

①2025 年 3 月に高等学校卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

②高等学校における全体の評定平均値が3.5以上の者

(2) 選抜方法

総合問題(点)・面接(点)・調査書(点)を総合的に評価し選抜した。

小論文(100 点)・面接(30 点)・調査書(20 点)を総合的に評価する

○一般選抜入試【併願可】

1) 一般選抜

A日程(1) 試験科目

必須科目 英語(100 点)

選択科目 国語総合【現代文のみ】、数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物、
化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎
の5科目から1科目選択(100 点)

(2) 選抜方法

筆記試験の結果により合否を決定する

B日程(1) 試験科目

必須科目 英語(100 点)

選択科目 国語総合【現代文のみ】、数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物
化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎
の5科目から2科目選択(各 100 点)

(2) 選抜方法

筆記試験の結果により合否を決定する

C日程(1) 試験科目

必須科目 英語(100 点)

選択科目 国語総合【現代文のみ】、数学Ⅰ・数学A、生物基礎・生物
化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎
の5科目から1科目選択(各 100 点)

調査書

(2) 選抜方法

筆記試験の結果により合否を決定する

2) 一般選抜 特別日程【併願可】

特別日程(1) 試験科目

必須科目 英語、国語総合【現代文のみ】記述式 2科目（各 100 点）

面接（50 点）

調査書（15 点）

(2) 選抜方法

筆記試験の結果、面接及び調査書により総合的に評価

3) 大学入学共通テスト利用入学試験【併願可】

(1) 試験科目

必須科目 英語【リスニングを含む】（200 点）

選択科目 国語【近代以降の文章】、数学Ⅰ・数学A、生物、化学、
生物基礎・化学基礎の 5 科目からから 2 科（100 点）

注：選択科目で 3 科目以上受験している場合は、高得点の 2 科目を採用
理科を 2 科目選択する場合は、「生物」「化学」の組合せのみ可

4. 教職員名簿(2024.4.1 現在)

専任教員	担当領域	氏名	職名	採用等年次
	立川看護学部長	長田 恵子	副学長/教授	R 4.6.1 採用
	看護基盤学	土井 庄三郎	教授	R 5 .4.1 採用
		高木 晴良	准教授	H 26.4.1 採用
		堀田 昇吾	講師	H 25.7.1 採用
		吉田 茜	助手	R 6.4.1 採用
	基礎看護学	松谷 弘子	教授	R 3.4.1 採用
		岩満 裕子	准教授	H 26.4.1 採用
		菅野 由貴子	講師	R 3.4.1 採用
		川島 悠	講師	R 6.4.1 採用
		渡邊 はる美	助手	R 5.4.1 採用
		片岡 大己	助手	R 4.4.1 採用
	成人・老年看護学	青木 和恵	教授	R 2.4.1 採用
		宗澤 紀子	准教授	R 6.4.1 採用
		藤村 朗子	准教授	H 27.4.1 採用
		櫻井 敬子	講師	H 29.4.1 採用
		折元 美雪	講師	H 28.4.1 採用
		苅田 明子	助教	H 29.4.1 採用
		泥谷 朋子	助教	R 2.4.1 採用
	小児看護学	久保 恭子	教授	H 28.4.1 採用
		宍戸 路佳	講師	H 31.4.1 採用
		濱寄 信恵	助教	R 5.4.1 採用
	母性看護学	及川 裕子	教授	R 6.4.1 採用
		小平 明日香	講師	R 5.4.1 採用
		松山 妙子	講師	H 29.4.1 採用
	精神看護学	村松 仁	教授	H 31.4.1 採用
		小川 賀恵	講師	H 31.4.1 採用
		永澤 眞	助手	R 6.4.1 採用
	在宅看護学	牧 千亜紀	准教授	H 6. 4.1 採用
		岩渕 起江	講師	H 24. 4.1 採用
		村田 加奈子	助教	R 2. 4.1 採用

事務職員	役職	氏名
	部長	大門 龍生
	部長代理	内田 智明
	主任	井上 里美
	職員	細井 智世
	図書館司書	町田 玲彦
	図書館司書	長坂 由美
	図書館司書	内田 節子
	保健室	清水 容子
		知識 比呂美

5. 委員会活動

1. 委員会名

カリキュラム委員会

2. 構成員

久保恭子（委員長）、青木和恵（副委員長）、長田恵子、松谷弘子、村松 仁、
及川裕子、穴戸路佳、高木晴良、藤村朗子、大門龍生、井上里美、

3. 活動内容

本学部の教育の質向上を目指し、年間計画に基づき活動を行った。2024年度は立川看護学部カリキュラム、立川看護学部新カリキュラムの2カリキュラムを運用した。

成績評価は1～3年次生の進級、4年次生の卒業判定について、進級要件および卒業要件に従い確認を行った。この際、学生のfGPA値を確認、支援の必要な学生を把握し面談や学習環境の整備、学習サポートを行った。学習環境の整備ではICT・DX等の整備、社会状況にあった履修案内の修正、新入生ガイダンス・各学年ガイダンスの内容の見直しと標準化、1年生については高校からの学修のつながりを強化するために、入学後の学修支援プログラムを導入した。

各科目の評価とカリキュラムの充実においては、各科目にルーブリック評価を導入した。導入にあたり、教員への周知を目的としてFD委員会等と連携し研修の機会を設けた。また、非常勤講師を除く全科目において、科目の評価と課題点を洗い出し、カリキュラム改正に向けて準備をしている。さらに、科目におけるポートフォリオ、修学カルテの導入に向けて準備中である。

1. 委員会名

実習検討委員会

2. 構成員

藤村朗子（委員長）、穴戸路佳（副委員長）、小川賀恵、川島 悠、皆田良子、堀田昇吾、
松山妙子、荻田明子、村田加奈子、吉田 茜、大門龍生、内田智明

3. 活動内容

1) 実習オリエンテーション（2024年5月9日）

- ・1年生を対象とした実習オリエンテーションの実施

2) 実習施設説明会（2024年5月20日）

- ・テーマ：「臨床実践能力を磨く臨地実習に向けて」
- ・内容：年間実習計画の共有
- ・参加者：対面4施設14名、オンライン26施設、教員31名

3) 卒業生来校型各論実習事前学習（2024年7月29日）

- ・内容：バイタルサイン測定等の基本技術の確認と応用、実習での学習方法指導
- ・参加者：本学卒業生 災害医療センター10名、共済立川病院3名

4) 実習教育の質向上に向けた取り組み

- ・看護技術到達度調査の実施と分析（到達度 60%未満項目の検討）
- ・インシデントレポートの分析と安全管理上の課題検討
- ・標準化した実習記録の運用評価と改善点の検討
- ・2025 年度、2026 年度の実習計画および 2025 年度学生配置の立案

5) 学術活動

- ・第 44 回日本看護科学学会学術集会での実習施設との交流集会開催
- ・共同研究成果の発表

6) 看護学実習連携会議（2025 年 1 月 27 日）

- ・テーマ：「看護学実習における教学マネジメントと教育 DX の新たな展開」
- ・内容：本学および 3 施設による Web 環境に伴う実習環境の変化や指導の課題共有、グループディスカッション
- ・参加者：実習施設 29 施設 76 名、本学 27 名（計 103 名）

1. 委員会名

学生生活支援委員会

2. 構成員

村松 仁(委員長)、宗澤紀子(副委員長)、櫻井敬子、濱寄信恵、泥谷朋子、大門龍生、内田智明、清水容子（保健室）

3. 活動内容

学生生活支援を目的とし、コンタクトグループミーティングの企画運営、卒業関連事業への支援、保健室担当者との情報共有、学籍変更に関する対応を行った。本年度から、コンタクトグループミーティングの担当教員が担当学生への修学指導を行うシステムを新規に開始し、よりきめ細かい修学指導の体制づくりを行った。また、コンタクトグループミーティングの実施と参加率はそれぞれ 4 月（86.6%）と 12 月（64.6%）であり、学生へのアンケートでは約 8 割以上が「交流が持てた」「情報共有ができた」との回答があり、学生間の交流促進に役立ったと考えられた。しかし、従来から後期の参加率が低いため、後期の実施時期も含め運営方法等を検討し、学生間の交流促進に寄与できる運営を考えている。

医愛際(9 月 28 日、29 日開催)では、学科企画として「災害・防災について考えよう」をテーマに、防災グッズ展示、VR システム体験を行い、災害の備えの重要性を改めて理解できた、VR システムが予想以上にリアルで驚いた等の意見が多く概ね好評であった。卒業関連事業への支援として同窓会委員の選出、卒業アルバム委員、卒業を祝う会委員を選出した。

1. 委員会名

国試・就職対策支援委員会

2. 構成員

牧千亜紀(委員長)、高木晴良(副委員長)、櫻井敬子、菅野由貴子、皆田良子、松山妙子、濱寄信恵、渡邊はる美、永澤 眞、大門龍生、内田智明、井上里美、細井智世

3. 活動内容

本委員会は、学生の国家試験対策及び就職支援の強化と、卒業後の支援体制の構築を図ることを目的に、年間実施計画に基づき活動を行った。

1) 国家試験対策支援

1～3 年次においては、苦手分野の把握と復習の必要性を理解し、学習継続の意識化を図ることを目的に、模擬試験と連動させた国家試験ガイダンスを実施した。

4 年次においては、各回の模擬試験の結果を分析し、得点率の低い分野を中心に特別講座を実施した。さらに、成績が伸び悩む学生を対象に後期後半に集中講座を実施し、取り組みへの強化を図った。

2) 就職対策支援

3 年次において、インターンシップ対策講座をはじめ、各種支援講座を実施した。また、同窓生に係る活動助成の支援金を受け、就職試験対策の一助となることを目的に、卒業生 15 名を招き懇談会を実施した。

3) 卒業後の支援

同窓生に係る活動助成の支援金を受け、同窓生の帰属意識を高め、同窓会を活性化させることを目的に、ホームカミングデイを実施した。

1. 委員会名

自己点検・評価委員会

2. 構成員

及川裕子(委員長)、高木晴良(副委員長)、岩満裕子、村田加奈子、大門龍生、内田智明

3. 活動内容

2024 年度自己点検・評価報告書の作成を行った。

また、2023 年度の年報を編集・作成し、以下の WEB ページからアクセスできるように公開した。

http://www.thcu.ac.jp/faculty/tachikawa/pdf/index/tachikawa-annual_2023.pdf

1. 委員会名

F D委員会

2. 構成員

村松 仁(委員長)、藤村朗子(副委員長)、宍戸路佳、牧千亜紀、宗澤紀子、川島 悠、堀田昇吾、松山妙子、大門龍生

3. 活動内容

立川看護学部における FD 活動を推進する目的で FD 研修会を 6 回開催した。

第 1 回目（4 月 4 日：立川看護学部における教学マネジメント/長田学部長）

第 2 回目（4 月 25 日：学長講話・認証評価における立川看護学部の取り組み/長田学部長）

第 3 回（6 月 27 日：ルーブリックを用いた実習評価の実際/皆田講師）

第 4 回（8 月 27 日：コンピテンシー基盤型教育の実現に向けた取り組み/医療保健学部看護学科教授 西村礼子先生）

第 5 回（9 月 26 日：修学カルテの運用について/穴戸准教授）

第 6 回（2 月 20 日、ルーブリックを用いた評価の実際/堀田講師）

各回ともに、講演と講演内容を元にしたグループワークを行った。参加状況はどの回もほぼ 9 割以上が参加し、参加者アンケートでは、FD 研修内容が理解できる、自己の教育活動の参考になったとの回答が約 8 割以上であった。

今年度に企画した FD プログラムは、立川看護学部における教学マネジメントを効果的に機能させるために非常に有効であったと考える。次年度も引き続き効果的な FD 活動を行って行きたい。

1. 委員会名

広報・情報ネットワーク委員会

2. 構成員

青木和恵（委員長）、宗澤紀子（副委員長）、菅野由貴子、小平明日香、泥谷朋子、渡邊はる美、吉田 茜、永澤 眞、大門龍生、細井智世

3. 活動内容

以下を実施し、立川看護学部の特徴や魅力を地域社会へ、また高校生やその家族に発信した。

- 1) オープンキャンパス(OC)等:OC、入試説明会、学科説明会などを計 3 回開催した。災害看護に関する模擬演習や学生生活に関する相談や報告などで毎回毎に参加者のニーズに合わせた内容とし、全参加者は約2000人であった。延べ 60 名以上の在学生在が教職員と協働し、本学部の長所である学生と教職員の距離の近さを参加者に印象付けた。
- 2) 2025 年版大学案内:立川市や実習病院との連携、ICT や VR を取り入れた授業、教員の教育や研究、生き生きとした学生生活、卒業生の活躍などの記事や写真を取材に基づき掲載し、高校生と社会の本学部への関心を高められる内容とした。
- 3) 学報 KOKORO:本学部で充実した学生生活を送る代表的な 4 年生の男子学生などを選出し掲載した。特に他学部と比較して澁刺とした「立川らしさ」を強調できる内容とした。
- 4) 出張講義:3 校を訪問し、計約 110 人の高校生に授業を実施した。テーマは「乳幼児の成長・発達と日常生活ケア」「活動の援助:人間の活動を科学する」「臨床検査学:エコーを使って体を見してみる」で、各専門領域の教員が講義した。

1. 委員会名

図書委員会

2. 構成員

土井庄三郎（委員長）、村松 仁（副委員長）、岩満裕子、櫻井敬子、町田玲彦、内田節子

3. 活動内容

月に1回、委員会を(原則デスクネットで、第1回と10回のみハイブリッド)開催し、図書館利用状況と契約データベース利用統計結果を共有した。

月精算の購入学術雑誌は、毎月 X-Point で申請し、楽楽精算で処理し業者に支払った。2025 年度の購入雑誌に関し、領域ごとに希望調査し、提出された内容を委員会で審議し、教授会審議にて最終決定した。

前期と後期の希望資料購入に関し、各領域長および各委員会委員長に希望調査し、提出された内容を委員会で審議し、教授会審議にて最終決定した。

今年度は立川図書館利用者アンケートを全学生と教職員を対象に実施し、その結果を委員会で共有することで、来年度以降の対応策を決定した。

また 2 年ぶりに図書の除籍を行い、引取希望教員に引き渡した。国家試験関係の図書を含め、学生に有用な図書は図書館内に陳列し配布することとした。

図書館利用に関して学生が十分把握できていないことから、1 年生以外の 2～4 年生へのガイダンス時に説明を加えることとした。

全学図書委員会から、電子ジャーナルやデータベースの希望調査が行われた。

1. 委員会名

入試委員会

2. 構成員

構成員は非公開としている。

3. 活動内容

立川看護学部の入学試験に係る事項について協議・審議し、試験の円滑な実施を図った。

1. 委員会名

国際交流委員会

2. 構成員

松谷弘子(委員長)、土井庄三郎(副委員長)、折元美雪、岩渕起江、泥谷朋子、片岡大己

3. 活動内容

(1) オーストラリア研修

研修日程：2024 年 9 月 18 日（水）～9 月 20 日（金）オンライン

研修先：グリフィス大学

・3 日間のオンライン研修では、学生 10 名、教職員 7 名が参加した。

立川看護学部から参加した学生0名、教員 1 名であった。

(2) ハワイ研修

研修期間:2025 年 3 月 9 日～3 月 23 日 15 日間

研修先:ハワイ大学

・立川看護学部からは 3 年生 1 名、2 年生 1 名、1 年生 3 名の計 5 名が参加した。

(3) リレー講演会:2024国際対外関係シリーズ3「世界の医療ケアを知ってみよう!!」

開催形態:すべて Zoom(リアルタイム、オンデマンド)

①第1回 2024 年 10 月 22 日(火)久末智美氏

フィンランドはなぜ世界一幸せな国に選ばれ続けるのか

Well-being を高める暮らしとフィンランド社会が抱える課題

②第 2 回 2024 年 11 月 16 日(土)D. Lorrie Wong

多職種間コミュニケーションを向上させるシミュレーション訓練

③第 3 回 2024 年 12 月 10 日(火) 坂本琢実氏

アフリカでの経験から看護師視点で考える、国際保健への貢献とキャリア開発

・立川看護学部は 4 年生 3 名、3 年生 2 名、1 年生 1 名の計 6 名、教員 11 名が参加した。

6. 教育活動

【看護基盤学領域】

教育方針

看護基盤学領域は、将来看護師となる人として必要な教養、知識のみならず、学際的な広い視野に立った物の見方を学ぶために重要な分野の教育を担当している。看護学以外の視点も重要視し、人間の生命を自然科学的、倫理的、あるいは社会的等、多面的な側面より論じる能力を有する看護師育成を目指している。さらに社会医学分野の講義や臨床検査学演習等を通じて、スキルミックスやチーム医療の重要性を教授することにも力点を置いている。

科目名

0) 初年次教育

高木晴良、堀田昇吾、土井庄三郎

「入学した学生の学力水準が年々低下傾向にある」との報告を受け、今年度から「自然科学の基礎」を補う「初年度教育」として以下の特別講義を行うこととした。

具体的には「数学 基礎的練習問題（国試過去問を含む）の復習」「国語 レポートの書き方①」「国語 レポートの書き方②」「生物 細胞の成り立ち」「生物 脳・神経とホルモン」「特別講義 命を考える（臓器移植について）」の 6 コマの講義と、自己学習として「（医学系専門用語の）漢字の読みのテスト」を実施した。

11 月時点で「初年度教育」として実施した内容に関して学生の評価を確認したところ、次のようになった。特に、心臓移植経験者を含む臓器移植ネットワークの方からお話を聞いた「特別講義」に関しては、「通常ではできない経験であり、その後も医療関係者としての心構えにつながった」などの意見もあり 84%が役に立っているとの評価であった。また、「レポートの書き方」の講義も、高校までとは違ってレポート提出が必要な講義・演習等が多いことから、約 80%が役に立っているとの好評価であった。

1) 自然科学の基礎：1年次前期

高木晴良、堀田昇吾、土井庄三郎

専門基礎分野、専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物、化学、物理、数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした。入学時点で、学生によって各内容の理解度に大きな差があるため、基礎的な内容を含むようにし、動画等を利用して理解しやすいように工夫した。また、学生には質問をミニレポートに記載してもらい、次回の講義時にその質問に答えるという形式で情報を共有し、全学生が最低限の必要知識を得られるように対応した。次年度も学生間で知識の差があると予想されるため、学生には予習および復習を促し、授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指している。

2) 医学概論：1 年次前期

土井庄三郎

良い看護師に成長するためには、そのベースとなる真の医学の姿とあるべき医療の姿を正しく捉えることが重要である。そのために医学とは何か、正しい医学・看護学を人々のために役立てる医療とはなにか、病気は人間に対しどのようなかわり合いを持ち、どのように診断され、治療され、予防されるべきかなどの問題の概要を理解できるよう、分かりやすく楽しい講義をモットーに行った。

講義の最後に、その日の講義のポイントを示すことで、復習を促し助けにしてもらった。尚、医学の歴史に関しては、自主学習によりレポートを提出させ、試験とは別に採点し評価した。

来年度はルーブリックを導入する予定であり、現在作成中である。その結果を利用し、学生の自己評価の適正化を促し、再来年度の講義方法に還元したい。また今年度同様、教育効果を上げるために、講義の最後にポイントを示すことは継続するとともに、リアクションペーパーによる質問や意見を受け付け、次の講義時間の最初に解説を加えることとする。医学の歴史に関するレポート提出に関しては、その目標が学生に明確になるようルーブリックを作成したい。

3) 解剖生理学 I：1 年次前期

土井庄三郎、非常勤講師(7 名)

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を看て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力も求められる。その際、身体の異常に気がつく力、異常を知る力が必要になる。正常な身体の仕組みと働きが損なわれると異常となることから、異常に気がつくには正常な身体の仕組みと働きを知っている必要がある。

試験は循環器と呼吸器、基礎知識、消化器、腎、血液、泌尿器、口腔外科を含む領域で実施した。今年度は補講を前期（循環・呼吸・消化）と後期（前期科目に神経・腎臓・内分泌を追加）に3コマずつ実施し、4年生にも参加してもらった。

来年度も今年度同様、学習効果を上げるために新入生ガイダンスとして医学の前段階プログラム（細胞、ホルモン、脳・神経系）に関する講義を行い、各講義後にリアクションペーパーにて質問や意見を受け付け、次の講義時間の最初に解説を加える。また来年度は、講義の最後に国家試験の過去問を提示解説することで、知識の整理と獲得意欲に結び付けた。またルーブリックを作成予定である。

4) 疫学・保健統計：1年次後期

高木晴良

疫学が、疾病の流行状態からその原因を探求し、予防方法を検討することで、人々の健康とQOL向上に資する学問であることを理解し、疫学によって各種エビデンスが創出されることで、医学や看護学が発展していることを理解してもらうことを目的とした。さらに、流行状態を示す情報源である各種保健統計の読み方の習得も目指した。そのため、医学・看護情報学の基礎の情報学部分（バイアス等）と公衆衛生学の保健統計部分、今まで触れる機

会のなかった疫学の基礎部分を組み合わせた講義とした。

講義内の重要なポイントを空欄問題形式にして事前に配布し、事前学習の資料とした。また、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。学生からの質問に対する回答は、次回の講義の前日には WebClass に文章として提示することで、情報を全員が共有できるようにした。

今年度も、対面で WebClass を用いた試験を行った。試験自体もスムーズであり、学生の解答状況をリアルタイムで確認できる点が優れていた。

5) 実践統計学：1年次後期

高木晴良

数多く存在する統計的な分析方法の一番基礎となる部分を、身近な Excel と大学生のアンケートデータを用いて、集計・分析することで、基本的な統計用語と統計学の基礎を習得し、その後、より実践的な健診データを各自のパソコンにインストールされている統計ソフト(JMP)を使って集計・分析することで、より実践的な知識として身に付けることを目的とした。

事前に操作と統計用語に関する説明資料と実際に操作方法を説明した動画を学生に提示することで、反転授業を試みたが、予習が十分でない学生が散見され、スムーズにできる群とスムーズに進めることができない群に分かれてしまったようである。

ただし、「健診データを指示に従って集計、分析する」という最終課題をクリアできたことから、必要最低限の分析手法は身についたはずである。今後は、この内容を忘れないように、2年次以降のHDS関連の講義中でブーストしていく予定である。

6) 公衆衛生学：2年次前期

高木晴良、土井庄三郎

わが国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の維持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防など衛生学の基礎知識に関する内容も含んでいる。また、環境と生活者の健康の観点から、環境汚染及び職業性疾患とその対策なども取り上げた。

公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学修することを目的とし講義を行った。

講義内の重要なポイントを空欄問題形式にして事前に配布し、事前学習の資料とした。また、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。学生からの質問に対する回答は、次回の講義の前日には WebClass に文章として提示することで、情報を全員が共有できるようにした。

今年度も、対面で WebClass を用いた試験を行った。試験自体もスムーズであり、学生の解答状況をリアルタイムで確認できる点が優れていた。

7) 医療・看護情報学の基礎：2年次前期

高木晴良

「看護職にとっての「情報」とは何なのか」ということを知るだけでなく、その「まもり方」を中心に解説した。昨年までの「医療・看護情報の特殊性」「病院内の情報ネットワークシステムの種類と導入推移」「情報倫理と医療倫理」「患者の権利を守るために必要な情報の取り扱い」「個人情報とプライバシーの違いと、その保護の方法」の 5 つテーマだけでなく、今年度からは「AI や ICT を用いた医療システムや遠隔医療」についても講義を行った。

講義内の重要なポイントを空欄問題形式にして事前に配布し、事前学習の資料とした。また、ミニレポートを提出させることで、学生の理解度を確認するとともに、疑問点などについて質問しやすい環境を提供した。学生からの質問に対する回答は、次の講義の前日には WebClass に文章として提示することで、情報を全員が共有できるようにした。

今年度も WebClass を用いて対面で終講試験を行った、試験自体はスムーズであり、学生の解答状況をリアルタイムで確認できる点が優れていた。

8) 災害看護学Ⅱ(災害看護学概論)：2 年次後期

堀田昇吾、長田恵子、高木晴良、吉田茜、非常勤講師

災害看護学Ⅱでは、災害看護Ⅰで学修してきた内容を踏まえて、災害時の医療・看護活動の基盤となる災害対策の法的根拠や、発災時から変化する状況下で、多職種と連携・協働しながら、災害サイクルにそって医療および看護活動を展開するための知識・技術・態度について学修することを目標とした。災害拠点病院の役割や発災時の行政および医療施設の対応などを解説し、被災者への支援については動画などを用いてイメージが湧きやすい教授方法を採用した。

災害拠点病院の役割や発災時の対応について、体験を通して理解するために、災害医療センターの防災訓練に参加を予定していたが、能登半島地震の影響によって訓練は中止となった。代替講義として、能登半島地震に対し、現地に入り DMAT および国立病院機構の支援活動に参加された災害医療センター職員の方々（4 名）に、災害支援の実際について講和を行っていただいた。これにより、今後の学習の動機付けにつながる学びとなっていた。

次年度も、災害訓練の参加など、体験を通じた学びとなるような授業を工夫していきたい。

9) 臨床検査学演習：2 年次後期

長田恵子、堀田昇吾、吉田茜、高木晴良、土井庄三郎、非常勤講師(1 名)

臨床検査の意義および基本原理を学ぶとともに、解剖生理や病態に関する理解を深める授業とした。以下の項目について、小グループに分かれて演習を行った。

「組織学的検査」は、顕微鏡の専門家を学外から非常勤としてお願いしているため、より教育効果の高いプログラムとなっている。

「心電図検査」は、12 誘導心電図を用い、看護師役患者役双方の体験を通し、検査時の看護師の配慮について検討をした。

「超音波検査」は、基本的原理の理解だけでなく、看護援助場面でのエコーの活用についても教授した。果肉ゼリー等を使って、エコー画像の見え方を理解した後に、学生自身の腕の血管を描出し、その見え方を全員が体験した。

「放射線検査」は環境放射線の測定を行うと共に、線源からの距離や遮蔽物の種類による放射線量の変化を測定した。

「呼吸機能検査」は、スパイロメーターを使った測定時の注意点を実体験すると共に、測定結果のグラフから肺活量や1秒率などを算出することで、その意味を理解した。

その他に、血液データと臨床症状を学生に提示し、患者の状態をアセスメントする演習を追加し、アセスメント力の向上を目指した。

10) 医療・看護論文の講読：2年次後期

高木晴良、堀田昇吾、吉田茜、土井庄三郎

EBN における看護研究の意義と論文の種類、構造、検索方法について講義した。また、学生はテーマ別のグループに分かれ、自ら検索・選択した和・英論文を各1本読解し、その内容をグループ内で発表した。さらに、グループ内で発表された論文の中から和・英論文1本ずつ選択し、他のグループ全体へ論文の内容とその評価結果をプレゼンテーションした。

多くの学生は論文に初めて触れる機会となったが、他グループのプレゼンテーションに対しても活発な意見交換がみられ、クリティークのポイントを理解することもおおむね達成できていた。

11) 看護研究の基礎：3年次前期

高木晴良、堀田昇吾、土井庄三郎

EBN における看護研究の意義を理解し、倫理・安全面への配慮も含めた看護研究の進め方について講義した。

看護学における研究の意義・研究で用いる用語・研究方法・倫理的配慮について理解するとともに、倫理申請書の置き方や研究計画書の書き方など基本的な知識を習得することを目的とした。

さらに、身近な量的データを Excel や統計ソフトの JMP を使って実際に分析するという演習を行った。卒業研究を実施する段階で「統計が全く分からない」ということでは困るため、必要最低限の知識を確認してもらった。

12) 国際看護学：3年次前期

土井庄三郎、長田恵子、高木晴良、堀田昇吾、桜井礼子、非常勤講師

進展するグローバリゼーションと健康問題との関連、世界の健康問題の現状や課題を知り、医療保健分野での国際協力のあり方や看護の役割機能について多角的に学ぶことを目的としている。グローバルヘルスやリプロダクティブヘルスの現状や国際協力・国際貢献の実践について学習し、今日的な課題について考える内容の講義を行った。

実際の健康問題、SDGs に関連する各国の健康指標を調べてグラフ化したり、国際協力に実際に関わってきた教員の体験をもとにした教材を用いたりしたことで学生の関心が高まり、国際看護を身近なこととして認知し、その将来を考える機会となったようである。

13) 災害看護学Ⅲ(災害看護学実践論)：3年次前期

長田恵子、高木晴良、堀田昇吾、吉田茜、桜井礼子、高以良仁

災害時の防災・減災におけるチーム医療の中での看護師の役割を理解し、災害発生～災害急性期、亜急性期～慢性期、回復～復興期までの全ての過程での救護活動に必要なスキルや大規模災害時に国際的視野に立った活動ができるスキルを学ぶことを目標とした。さらに、NBC 災害（核（nuclear）、生物（biological）、化学物質（chemical）による特殊災害に対する基本的知識・技術についても紹介した。

また、対面演習としては、DMAT 隊員による災害現場救護所における対応と二次トリアージに関するシミュレーション演習と避難所運用ゲームであるHUGを実施した。これまでの災害看護に関する知識をベースに演習を行うことで、より実践力育成につながったものと考えている。

14) 医療安全学：3年次前期

長田恵子、堀田昇吾、高木晴良、吉田茜、岩渕起江、非常勤講師(2名)

医療安全の基本的な考え方を理解し、医療における安全性の確保に向けた看護師の役割と責任について学修する。医療安全の概念やヒューマンエラーに関する内容から導入し、国民が求める医療の安全と医療の質保証の観点を教授した。その後、看護師の役割や法的責務について教授し、実臨床でのインシデント事例を参考に、P-mSHELL モデル、RCA 分析、Team STEPPS 等を用い、医療事故の発生から今後の対策までの解説を行い、医療事故に関する意識を高められるように工夫した。

医療事故防止には、日常のインシデントの共有が効果的であることの理解を促すために、事例からのリスク想定・リスクの優先順位および対策立案の演習を行い、グループワークでディスカッションし、学びを共有した。

職業上の安全対策では、よりリアルな学習環境を設定するために、VR 教材を実習施設と連携して開発し、学生が実際の医療現場をイメージできるような講義を展開した。

なお、VR 教材を用いた講義に関しては、第 43 回日本科学学会学術集会において発表を行った。

15) 英語論文のクリティーク：3年次後期

高木晴良、各領域担当教員

卒業研究に向けて、英語の論文を批判的に読むことにより、卒業研究に関連する分野の最新動向を把握すると共に、研究活動における文献調査の意義を理解することが目標である。

各領域で、指定された英語論文や各自で検索した論文を精読し、卒業研究グループの中で、抄読会形式の発表と討論を行った。

16) 看護学統合実習：4年次前期

長田恵子、高木晴良、各領域担当教員

本実習は、4 年次までに学習した全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合した実習として位置付けている。看護実践能力の向上、看護を統合的にマネジメントするための基礎的能力の育成、自己コントロールと自己開発への課題の明確化を目的とした。

臨地実習に入る前に、自己の実習課題を明確にし、実習施設の特徴を理解した上で、各学生は実習計画の立案・実施・評価を行った。臨地実習は 4 施設で実施した。学生は「複数患者受け持ちによる優先順位の考え方」「看護師長やリーダーによる看護マネジメントの実施方法」「夜間看護の特徴」などについて学んでいた。

17) 災害看護学実習：4 年次前期

長田恵子、堀田昇吾、高木晴良、吉田茜

災害看護学実習は、災害医療センター、立川防災館の2施設で行った。マス・トリアージ、多数傷病者病院受け入れ実習、災害体験実習、災害時病棟初動実習、避難所設営運営実習、災害医療センター災害訓練などを実施した。災害医療センターの DMAT メンバーから全面協力を得られ、臨場感のある実習になり、災害医療における看護職の役割機能や、各所における責任ある行動及びリーダーシップについて学修することができていた。

18) 卒業研究：3年次後期・4年次前期・後期

長田恵子、高木晴良、その他全教員

13 名程度のグループごとに、災害に関連する具体的なテーマを設定し、研究計画の立案から成果発表までの一連のプロセスを実践する。卒業研究を通して、臨床現場で行う看護研究のための基本的な方法論を習得することが目的である。

2023 年 11 月 3 日には、「2023 年度卒業研究発表会」を、4年生及び教員は教室で、3年生は Zoom で参加するというハイブリッド形式で開催した。来賓として、災害医療センターからは「鵜田美奈子副看護部長、福田敦子教育担当看護師長」の2名、村山医療センターからは「杉山学子看護部長」、立川病院からは「菱沼啓子看護部長」が来校され、発表会に参加してくださった。

なお、各ゼミのテーマと構成メンバーは以下のとおりである。

ゼミ名	テーマ	学生氏名
在宅	在宅療養しているⅡ型糖尿病療養者の災害への思い	柿沼優希・吉田玲奈・稲富京香・内野陽菜・佐々木栞・篠田美美子・島崎彩音・竹田裕也・永淵真那・横田仁子・山田えみり・吉岡藍
基礎②	アトピー性皮膚炎患者のセルフケア能力とストレス対処行動および災害時の備えに関する実態調査 ～災害時のアトピー性皮膚炎症状の悪化防止に向けて～	加藤藍唯・岩倉穂花・梅野彩菜・小澤美優・柴本理子・関七星・橋本愛梨・秦野桃子・廣濱知里・福泉志歩 師岡倫聖・野武充暉

老年	訪問看護師の高齢者に対する災害時個別支援に関する実践内容と課題	高部純成・高村尚也・宮崎陽向・上野風揮・狩野華代・小山菜花・坂本花梨・杉浦実咲・田村春香・中澤沙奈・中村玲菜・馬場穂乃果・綿貫ゆらり
母性	初産婦の災害に関する情報源と避難行動への備えの実態および災害自己効力感との関連	岩城波琉・望月秀真・今出川芽・岩間遥香・内野亜裕未・奥山菜々美・河野友里・小暮千紘・佐藤結佳子・崩口愛純・戸板心桜・松村果朋
小児	訪問看護師が行う腹膜透析を導入している児と家族への災害対策の現状	山下はな・山口朔来・赤坂紫帆・一色紋歌・小原彩瑚・串田太陽・中地蒼音・西尾美彩・橋本れんの・前島雅・水口真実・三宅蘭
精神	地域で生活する精神障害者における防災マニュアルの認知と関連要因	大泉千鶴・鵜飼姫菜・大野奈津・大政亜実・大屋遥己・尾方梨紗・大日方美穂・折田彩南・川 怜愛・中西 葵・馬場莉音・松崎 廉・吉野梨沙
基盤	災害時の停電による電子カルテ使用不能時に備えた対策の実態 ～看護管理責任者の視点から～	坂本実優・井原結衣・尾形花・黒台菜美子・榊原史織・藺田莉々香・鈴木ゆあ・高橋美空・奈倉結菜・廣岡萌依・細野真優花・堀越麻央
基礎①	病院で勤務している看護師が災害時に看護大学生へ期待する看護ケアの関連要因	榎井美愛・植村くるみ・土肥彩子・野口茉生・久保灯・富田享之・中村美咲・平野香菜枝・藤井美優・松村風海・宮岡七帆・吉田心
成人	都内に通勤・通学する都民の首都直下地震への備えの実態調査	清水咲希・小川穂乃花・神尾雛架・川久保桃葉・河内咲來・河部滯・久保田瑠・込山愛理・添田絢子・多田ひなた・三沢遥斗・渡邊愛・渡邊ひより

19) 看護政策論：4 年次後期（選択必修）

今年度は、選択を希望する学生が少なかったために開講しなかった。

【基礎看護学領域】

教育方針

基礎看護学は、入学して最も早い段階で看護の基礎的な知識・技術・態度を学修する領域である。看護師として健康上の問題を持つ対象の基本的ニーズの充足を目指した看護を実践するために、講義・演習・実習の学習形態を活用し学修している。基礎看護学では他の看護学領域より多くの演習を取り入れており、その中で学生同士や模型モデル・模擬患者などで用

いて看護師・患者・観察者の役割を行い、それぞれの役割を通して、対象のニーズを充足できる安全・安楽な看護実践能力の向上を目指している。また、学生の主体的学修の促進を目指してアクティブラーニングを積極的に活用し、看護学の導入である基礎看護学への興味関心を深め、看護を探究する姿勢の育成を図っている。

科目名

1) 看護学概論：1年次前期

松谷弘子

看護の初学者が最初に看護を学ぶ科目として、「看護とは何か」を考えるに当たり、看護の歴史、日本における健康に関する認識と医療の変化・発展及び法律を含めた政策の変化など時代の流れの中で、理解することを通して考えられるよう講義内容を構築した。看護の基本概念である「人間、健康、環境、看護とは何か」について、ナイチンゲールとヘンダーソンを中心とした考え方やその理論家の生きた時代背景を含め、看護の変遷が理解できるように講義した。ヘンダーソンに関しては、看護過程展開時に繋がられるように教授した。看護のイメージができるように、また看護する喜びが感じられるように具体的な事例を含め講義内容を構築した。

2) 看護倫理：1年後期

岩満裕子

社会的規範、道徳と法を理解し、倫理的問題は、どこにあるかを身の回りで起きている事象を取り上げ、事例を中心に倫理的問題が理解できるよう教授した。看護倫理に関しては、生死に関する事例や看護者の倫理綱領の理解が深められるように事例を用いて解説した。倫理的問題の解決法としては分析ツール（JONSEN の窓、4 ステップモデル）を説明し、医療における倫理的問題の検討すべき視点を教授した。実際に事例分析を個人で検討後、グループワーク及び全体討議で概説し理解を深めた。災害時に起こりうる倫理的問題に関しても考えられる倫理的問題とその対策についてグループワークを実施した。毎回、ルーブリック評価を学生に記載してもらい、倫理に関する理解を確認した。次年度も同様に、倫理的問題に気づくことを重点化し、事例を読み砕くことで理解できるように教授し、看護倫理の視点を教授する。

3) 看護実践技術論Ⅰ（日常生活における援助技術と判断）：1年前期

菅野由貴子、松谷弘子、岩満裕子、川島悠、片岡大己、渡邊はる美、雨宮敦子（非常勤）

初めて看護学を学ぶ学生が「看護技術」を学ぶにあたって、当たり前のように行ってきた人間の生活が成立するために必要な基本的な知識や特徴を科学的根拠に基づき学ぶ必要性を示した。これを土台としてさまざまな状況にある人間の生活過程を整えるために必要な看護技術の基礎的知識・技術・態度を学習することを目的とした。実技演習を重視する本科目では、事前に講義の復習とナーシングスキル等動画教材の視聴、技術の手順の根拠や留意点について自己学習を行い、演習実施時に動画で見えにくい部分、詳細が省略されている部分等のポイント、留意点を教員デモンストレーションで示し、少人数に分かれて教員からの個々の指導の下で実施した。初学者であることを活かし、演習では看護師役、患者役の両方を体験

することで、両者の視点から対象の日常生活にかかわるニーズを判断し、より患者に近い視点で人間の尊厳や権利の擁護、安全・安楽に配慮しながら援助を行う必要性を意識できるよう演習を展開した。日常生活援助実習で実践できる技術が多いことを踏まえ、学生の学修への動機付けと共に自己練習による技術の習得を促していきたい。

4) 看護実践技術論Ⅱ（治療・処置における援助技術と判断）：1年後期

菅野由貴子、松谷弘子、岩満裕子、川島悠、片岡大己、渡邊はる美、雨宮敦子（非常勤）

治療・処置における援助技術は、看護専門職としての自律的判断を要し、より高い倫理性と正確性、安全性が求められる。講義では診療の補助の意義と看護技術を提供するために必要な知識・技術・態度について教授した。講義および動画教材による事前学習を活用し、手順と留意点を確認すると共に、手技を追うのに集中してしまいがちな演習においてどのようなことを意識して実施するか目的意識をもって演習に臨むよう課題を提示した。教員指導の下での演習でも必要に応じて演習中も動画で確認しながら主体的に学習を行うことを目指した。清潔・不潔の区別が重要になる技術項目であるため、全体を通じて清潔なものを汚染しないこと、汚染を広げないことを、汚染した場合にはどうするかを考えられるよう演習を行った。中核技術の実施にはシミュレーションモデルを使用するが、その前後では患者役を学生が行い、中核技術の提供以外にどのような援助や配慮が必要かを常に考え判断するよう課題を設定した。今後も根拠に基づいた正しい技術の習得と共に、対象への倫理的配慮、安全・安楽を意識した援助技術の学修を継続したい。

5) 看護実践技術論Ⅲ（看護技術の統合）：1年後期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、川島悠、片岡大己、渡邊はる美、雨宮敦子（非常勤）

あらゆる健康段階の対象にとって、日常行われている清潔の意味を考え、看護師が実施する清潔への援助について学修した。対象の清潔に関わるニーズを理解し、対象の個別性に応じ、既習の日常生活援助に関する知識や技術を統合・活用して、最善の看護を実践する意義と方法を学ぶことを学習目標とした。講義前半の演習では、事前にナーシングスキルの視聴、技術の手順の根拠や留意点について復習を行い、グループでディスカッションを行いながら知識と技術の学習を深めた。講義後半はグループワークを通して、患者の個別性に配慮した援助について学ぶために、事例から対象の健康状態、援助計画立案、援助の実施を行った。実施後は、看護師役・患者役・観察役を通して自らの援助計画とその実施の評価を具体的に振り返ることで、個々の技術の提供ではなく、技術の統合の大切さ、患者の反応を捉えることや援助を評価することの意義を学修した。次年度以降も、日常生活援助の知識と技術を統合する力と、対象の個別性に応じた援助方法の実施とその意義の習得に向けて、講義・演習内容を検討していく。

6) ヘルスアセスメント：1年前期

川島悠、松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、片岡大己、渡邊はる美、雨宮敦子（非常勤）

対象の健康状態を把握するための技術について LMS を活用しながら教授した。ヘルスアセ

メントの内容を強化し、自宅での生活にも意識した内容を展開し、協同学習による検討を通して学びを深めた。講義と演習が切り離されることがないように授業資料をそのまま演習資料として活用できる工夫をして教授した。バイタルサイン測定は演習後に技術確認を実施し、必要な学生には補講を行いながらスキルの再確認を行い、すべての学生が測定できるよう支援した。

次年度は、イメージつきにくい在宅での生活を意識しながら、模擬患者を通してヘルスアセスメントでの学びを活用していけるような教授方略を考えている。

7) フィジカル・アセスメント：2年後期

岩満裕子、松谷弘子、菅野由貴子、川島悠、片岡大己、渡邊はる美、雨宮敦子（非常勤）

2年前期であり、疾病についてはまだ学習していない分野もあり、疾患や症状を説明も入れ、実施した。基本的な身体の見方・手法から説明し、身体各部位の見方を中心に講義・演習を実施した。講義ではイメージできるように、事前に作成したフィジカル・アセスメント動画を講義内で視聴しながら説明を行い、呼吸音等はシミュレーション演習で実際の呼吸音・心音を聴取することを行い実践力に繋がる演習を計画し実施した。次年度は、演習内容に入れていなかった乳がん等の事例を入れ、更に実践力に繋がる演習を教授していく。

8) 看護過程と看護方法論：1年次後期

川島悠、片岡大己、渡邊はる美

対象をホリスティックに捉え看護過程という道具を使いこなせるようにキーコンセプトに、ICTツールや模擬患者を活用した授業展開を行った。教育用電子カルテを活用し、患者情報から取捨選択し、アセスメントに必要な情報を自ら収集できる力を養った。また、協同学習を用いながら課題を行うことや学生の不足知識を外部講師により補うことで疾患の特徴を捉え学習の理解を深めた。F.CESS を用いてアセスメント・看護問題の明確化・看護計画・実施・評価の記録を行い、臨床でのデジタルリテラシー能力を育む授業展開を行った。情報収集と看護計画の実施では、シミュレーション教育を導入し、教員による模擬患者に対して実践し、フィードバックを受け、リフレクションする中で、自己課題や看護計画の追加・修正を促進した。

次年度は、他の科目との連携を図りながら対象理解の促進と臨床推論を養える授業展開にしていきたい。

9) コミュニケーション技法：1年次後期

岩満裕子、片岡大己、渡邊はる美、雨宮敦子（非常勤）

基本的なコミュニケーション技法について概説し、自己理解・他者理解を中心に据えて、教授した。自己のコミュニケーション能力が如何なるものか、患者とのコミュニケーションにおいて如何なる姿勢等が必要となるかを学ぶ目的で、日常生活援助展開実習をイメージできるように場面を設定し、卒業生の協力を得て SP（Simulated Patient）模擬患者演習を3回実施。患者と看護師間の言葉の伝わり方及び患者の表情・態度から読み取る必要性の理解を目的に DVD の視聴、プロセスレコードで自分と患者の会話を振り返る演習とを実施。指導者への報告演習も実施し、看護師への声のかけ方、SBERなどを用いた要点の伝え方の演習で実施。

演習は全て録画して、全員で共有し、全体で振り返りを行った。全講・演習はルーブリック評価を用いて理解度を確認した。認知症、聴覚・視覚障害、言語障害を持つ方たちへのコミュニケーションについては障害ごとのグループで調べ、グループを再編成し、それぞれがその障害の専門家として教え合うジグソー学習も実施した。次年度も同様に計画予定である。

10) 看護学体験実習：1年次前期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、川島 悠、片岡大己、渡邊はる美、雨宮敦子（非常勤）

座学で学んだことを実際の医療機関や地域の施設での見学実習を通し、看護の対象や看護を提供する場について幅広く理解を深めることができた。実習病院である国立病院機構災害医療センターと国立病院機構村山医療センターの看護部の協力の元、初日は学生全員がいずれかの施設にて看護職の役割と活動の説明を聞き、午後からは病院の環境を学ぶために施設内を見学を実施した。2日目以降は病棟や病床の環境を学び、看護の提供場面を見学し、実際に入院している患者の反応を観察して、入院している患者について理解を深めた。病院以外に地域包括支援センター、訪問看護ステーション、介護老人保健施設の3つのうち、いずれか1施設の見学実習を行った。学生は、これらの施設見学を通して、これから学ぶ患者という対象を病院という視点だけでなく地域で生活している対象者として幅広い視点で学ぶことができ、今後の看護学の講義や演習にイメージしやすくなり、学習効果が期待できる実習となった。次年度も感染対策を徹底し、学生の学修内容が深められるよう検討していきたい。

11) 日常生活援助展開実習：1年次後期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、川島 悠、片岡大己、渡邊はる美、雨宮敦子（非常勤）

1年生が初めて入院患者を受け持ち、講義・演習で学習した日常生活援助を実際に行いながら、知識・技術・態度の統合を図り、また今後の看護学の学習に向け、看護実践能力獲得の視点から自己の課題を明確にすることを目標としている実習である。今年度も国立病院機構災害医療センターと国立病院機構村山医療センターの2施設で実習を行った。初めて患者を受け持ち、コミュニケーションやバイタルサインの測定、環境整備や清潔援助等といった看護実践を通して、対象である患者の基本的ニーズの充足を目指した看護の実践を体験し、今後の自己の課題を明確にすることができた。次年度は患者のニーズから看護実践へ結び付けられるように実習内容の検討を図りたい。

12) 看護過程展開実習：2年次前期

松谷弘子、岩満裕子、菅野由貴子、川島悠、濱寄信恵、片岡大己、渡邊はる美、吉田 茜
永澤 眞、吉田奈々絵、雨宮敦子（非常勤）、金澤鮎美（非常勤）

国立病院機構災害医療センターと国立病院機構村山医療センターで実習した。学生は初めて患者を2週間受け持ち、対象である患者の基本的ニーズの充足を目指した看護展開を目指して、学内で学んだ知識・技術と実際の患者のケアを結びつけて思考・記載する大切さを学生は実感することができた。

実習開始前から臨床側との連携を密にし、教育体制を整えたため、学生は学内の学びと臨地

での実際を統合し、今後の自己の課題を明確にすることができた。今後も臨床側との連携を密にして実習体制を整えていく必要がある。

13) 看護理論：2年次生後期

松谷弘子

看護理論とは何か、理論の概念枠組み、構造を理解するとともに、看護実践における理論の活用方法について具体的事例をあげ、看護の展開にどの様に理論的視点が盛り込まれているのかについて、代表的な看護理論家 10 名を取り上げて教授した。後半のグループワークでは、1 名の理論家に対して2つのグループがプレゼンテーションを行い、理解が深まるよう全体討議した。学んだ 10 名の理論家について、理解したことをまとめる作業を行うことで様々な理論が理解できるよう組み立てた。次年度は、理論と実践をさらに結びつけられるような講義も取り入れ、理論に興味を持てるように構築していく予定である。

【成人・老年看護学領域】

教育方針

成人看護学と老年看護学の二領域を合わせて、AYA 世代から老年期まで、死を含めてこのライフステージにある人々を「統合された存在である人間」として捉え、その看護を教授する。概論と各論、次に実践論を理論とデモンストレーション、ロールプレイング、グループディスカッションなどによるアクティブラーニングで展開する。これらを経て看護実践力を養う臨地実習を臨床指導者と協働して結実させる。全般を通して教員の臨床経験、文学、歴史、社会現象、事件など、経験的、芸術的、社会的情報も取り入れ、VR、F.CESS、電子教科書など ICT を積極的に活用する。学生にとって未知である成人(大人)や老年者の成長のプロセス、人生観、生活感、死生観などの想像力を高め、「人が生まれ、成長し、死ぬ」というプロセスへの洞察や共感を養い人生の意義を思考して自身の看護観、死生観を形成し、人々への愛と社会への使命をもって実践する看護師となる学生を育成する。

科目名

1) 成人看護学概論：1年次後期

青木和恵、藤村朗子、櫻井敬子

成人(大人)の特徴、健康と疾病の状況を学び、成人(大人)とは何か、さらに個人の人生と社会において成人(大人)であることの意味を理解し、これらから成人看護の意義とその方法を教授する。受講する学生の多くは 20 歳前後で成人(大人)の入り口にいる AYA 世代であり、学生にとって成人(大人)は未知の存在である。そこで事例や例題の展開で、両親や祖父母など身近な人を想像できる内容とし、理論や概論を理解できるように進めていった。また歴史の名言、古今東西の格言などを多く取り入れ、成人(大人)への関心と想像力を高めた。これらによって自身の世代である AYA 世も含め、その健康問題や看護を理解し、医療問題や課題などを理解できるように教授した。学生は核家族、若者減少という世代背景の中で生活し、

加えて新型コロナウイルス対策世代で人との接触の少ない環境で過ごしてきた。これらの学生が広く長い幅をもつ成人(大人)というライフステージを理解することは難しいことである。来年度も、さらに学生の想像力、推察力、関心、感性を高める授業を展開していく。

2) 老年看護学概論：1 年次後期

宗澤紀子、青木和恵

本科目の目的は、高齢者をライフサイクルと社会的環境の両面から総合的に捉え、老年期に関する多様な視点を学び、高齢者の健康や生活を支える看護の基礎を修得することである。到達目標として、老年期の生活の特徴や加齢による変化の理解、高齢者を支える保健・医療・福祉システムの理解、高齢者の権利擁護や看護の特徴の理解を掲げた。授業では、講義を中心に資料や視聴覚教材を活用し、多角的な学習アプローチを導入した。特に、老年期の特徴を理解するため、学生が身近な高齢者にインタビューを行い、グループディスカッションや発表、意見交換を行い、理解を深めた。学生は高齢者の生活史や健康、価値観について多様な視点を学び、実践的な看護の基礎を築くことができた。今後もより効果的な学習方法を取り入れ、高齢者および高齢者看護への理解をさらに深める取り組みを継続する。

3) 慢性期看護論：2 年次前期

櫻井敬子、青木和恵

生活習慣から派生する主な慢性疾患の看護について、解剖生理学・病態生理学を踏まえた講義を構成した。既習学習を事前学習課題に取り入れ、講義では治療・処置と看護の関連を確認できる練習問題を導入した。例年、学生からは練習問題が役立つとの反応があるため、今後もこの取り組みを継続していく予定。

慢性期におけるがん看護については、治療経過に伴う対象の変化の事例を交え、臨床における現状と対象との関わりの困難さ、並びに価値観の変化に対応した看護の重要性を教授した。また、治療選択や再発における看護の倫理的課題については、がん認定看護師のナラティブな語りを通して、学生が今後直面する看護の課題を提示した。

次年度も、事前課題・事後課題において未修得である病態生理を含めた網羅的な内容の検討を行っていく。また、各単元の学生理解度のループリック評価の回答率を高め、学習理解が深まるように講義内容の充実に努めていく。

4) 老年期看護論：2 年次前期

折元美雪、青木和恵

老年期看護論は、1 年次の老年看護学概論の学修を基にして、老年期の健康障害の特徴、健康レベルに応じた看護実践を学び、加齢による生活機能障害を有する高齢者および家族への看護援助の理論と具体的な方法を学ぶ授業である。入院治療を必要とする高齢者の看護について理解できること、高齢者に特徴的な健康障害として主要な疾病をおさえつつ中でも特に認知機能障害について理解できることを到達目標として展開した。講義の冒頭には、前回講義に関する学びや疑問を全体に向けフィードバック及び補足説明をする時間を取り、

誤った解釈の是正と復習による学習の定着を図った。講義に加え、高齢者を支える多職種連携の特徴を捉えることを目的にグループワークを行い、考えを他の学生と共有することで各専門職の役割に関する知識のみでなく連携により期待できる効果について多角的に考える力と発表をとおしてプレゼンテーション力を養った。

次年度は、新カリキュラムを念頭に置き、他の授業科目対応内容の照会も行いながら、授業内容を構築できるよう検討が必要である。

5) 老年看護実践論：2 年次前期

皆田良子、宗澤紀子、折元美雪

加齢による生活機能障害および老年期の特徴的な健康障害を理解するために、基本的なヘルスアセスメント、日常生活を支える活動・動作、生活リズムなどについて、最新の研究から得られた知見も取り入れながら講義を行った。また、老年期の生活機能を踏まえた食事、排泄、清潔など、具体的な援助内容については、事例を用いながら対象者をイメージすることと、実践力を身に着けるため、ボディソープとビニール袋を使用した泡作り体験、背抜きや腹部マッサージの演習を行った。今年度は、老年看護学実習Ⅰを見据えて、老年期の特徴的なコミュニケーションスキルについての講義を新たに追加した。毎回講義の冒頭では、前回講義に関する学びや疑問を全体に向けフィードバック及び補足説明をすることで、誤った解釈の是正と復習による学習の定着を図った。認知症看護については、認知症看護認定看護師を招聘し、基本的な認知症看護及び急性期病院での認知症看護の実践的な内容を講義していただいた。

今後も、演習も効果的に取り入れながら、習成果が上がる授業を検討していく必要がある。

6) 家族看護学：2 年次前期

宗澤紀子、青木和恵、村松仁、及川祐子、藤村朗子、濱寄信恵

本科目の目的は、現代の家族が抱える課題や役割を踏まえ、家族観を見つめ直し、家族を単位とした看護の考え方を理解し、多角的に家族を捉える視点を養うことである。特に、疾病や障害が家族に与える影響、また家族が患者に及ぼす影響を学び、家族看護の意義と役割を修得することに主眼を置いた。具体的には、学生が実習で家族と接する機会が少ない点を考慮し、家族形態の多様化や発達課題、健康危機の理解には、学生が様々な状況をイメージできるような動画教材や事前・事後課題を活用した。さらに、事例を交えて家族アセスメントの視点を示し、各回の講義を通じて理解を深めた。学生は、家族の多様性や家族看護の重要性への理解を深めることができていた。次年度も、事例等を用いた多様な学習アプローチを活用し、家族のセルフケア機能を高める看護の基本的な考え方や役割について、学生が主体的に学べる環境を整え、さらなる理解の促進を図る。

7) 老年看護学実習Ⅰ：2 年次後期

皆田良子、宗澤紀子、折元美雪、吉田奈々絵

地域で生活する高齢者の特徴と取り巻く環境、そして高齢者の健康な生活を促進するヘル

スケアシステムを学ぶために高齢者福祉センター、老人福祉施設等で実習を行った。

施設実習では、対象に応じた関わりや多様な生活史・価値観に触れることにより、高齢者に対する理解の重要性と難しさを体感できるよう学生の学びやすい環境調整に努めた。また、全体学内実習日には、対象理解を促進するために、グループに分かれて、70歳と100歳の人が生きてきた時代背景を調べ、その内容について共有した。さらに、ディベートを実施することで、現在の高齢者に関する社会保障制度や高齢者看護についての自己の考えを論理的に表現すること、相手の話をよく聞くことなど体験を通して学習した。グループ別の学内実習では、高齢者体験を実施した後、高齢者目線で自宅近辺を探索し、生活のしづらさや高齢者への配慮のある環境整備について学びを深めた。次年度も、同様の形式で実習を行い、地域や施設で生活する高齢者理解と高齢者に対する看護の役割に関する学びが深まるような内容を検討していきたい。

8) 急性期看護論：3年次前期

藤村朗子、荻田明子

急性期にある患者の対象理解と周手術期看護の実践について体系的に講義を進めた。講義では事前・事後学習課題を設定し、小テストによる知識の定着を図った。グループワーク、ロールプレイなどアクティブラーニングを積極的に取り入れ、災害医療センター救命救急看護師の協力を得て臨床現場に即した実践的な学びを深めた。急性期における終末期看護や退院支援、臨床倫理について事例を用いた討議を行い、包括的な理解を深めることができた。多様な学習方法により、学生の理解度向上と実践力の養成を目指した。次年度は臨床現場との連携をさらに強化し、より実践的な教育内容の充実を図る。

9) 成人老年看護実践論：3年次前期

藤村朗子、青木和恵、宗澤紀子、皆田良子、折元美雪、櫻井敬子、荻田明子、泥谷朋子
吉田奈々絵

成人・老年看護に必要な看護技術の習得と看護過程の展開について学習を進めた。成人看護学では事例患者を設定し、一次救命処置、気管吸引、酸素投与などの看護技術を教授した。災害医療センター看護師と4年次生による模擬患者演習では、教育用電子カルテを用いた実践的な学習を行った。老年看護学では目標志向型思考に基づく看護過程の展開とベッドサイドでの情報収集を重視し、グループワークを通じて高齢者の特性に応じた看護実践力を養った。両領域ともシミュレーション教育により実習に向けたレディネスを形成できた。次年度は実習を見据え、臨床判断能力の向上につながる教育内容を強化する。

10) 看護管理学：3年次前期

青木和恵、泥谷朋子

医療施設において看護組織と医療チームを運営し、多職種チーム医療のリーダーおよびメンバーとして組織の目指す看護管理と看護実践を展開し、さらに学生自身が医療者としてのキャリア形成を検討できるようになることを目指した。まず日本の医療の現状と経済の状況

を教授し、つぎに組織論として日本の組織の形態と特徴、医療組織の形態と多職種チーム医療の特徴について説明し、看護部門の構成、人材育成、労務管理、患者管理、安全管理などの具体的管理を解説し、看護管理とは何かを考察できるように進めた。多職種チーム医療についてはグループディスカッションを行い、キャリア形成については教員が自身のキャリアアップのプロセスをプレゼンテーションした。来年度は入職直後から直面する看護体制や勤務体制、病棟管理などに関する解説など、学生が入職早期から順応していくための知識の修得をさらに強化する。その上で学生には遠い存在でと捉えられやすい「看護管理」というものを活用していけるように、教員自身の経験や事例を取り入れ、積極的なアクティブラーニングを企画していく。

11) 成人看護学実習Ⅰ（急性期）：3年次後期

藤村朗子、泥谷朋子

急性期にある患者・家族を多角的に理解し、心身の危機的状況から生活機能の回復、社会復帰までの看護実践能力を修得することを目的に、独立行政法人国立病院機構災害医療センター、国家公務員共済組合連合会立川病院で実習を実施した。臨床判断モデルを活用した看護過程の展開とリフレクションの技法を用いて実践力の向上を図った。3領域実習（救命救急センター、集中治療室、手術室）を通して、急性期医療におけるチーム医療の実際を学修した。カンファレンスでは実習での学びを共有し、急性期看護における実践的理解を深めることができた。次年度は急性期看護における対象理解と臨床判断の視点の充実を目指す。

12) 成人看護学実習Ⅱ（慢性期）：3年次後期

櫻井敬子、荻田明子、吉田奈々絵、他非常勤助手2名

慢性期看護は急性期医療を担う国立病院機構災害医療センターと機能回復病棟を有する国立病院機構村山医療センターで実習を行っている。今年度から、1個病棟あたりの学生数を少数化し、学生一人ひとりに対する丁寧な指導体制が可能とあった。また、今年度は臨床推論を用いて看護を展開しており、臨床指導者の援助の思考を丁寧に説明する場面も多くなり、日々の看護実践の意図や意味が深化している。

慢性期の対象理解のために、透析室の見学実習や、臨床での多職種との連携カンファレンス、家族支援カンファレンス、担当医師からの病状解説などを定期的に設定し、複雑化する慢性期患者の理解のための環境を整備している。患者の入院期間短縮や急激な病態変化によってやむを得ず受け持ち患者が変更されることもあるため、学生が不安なく実習に取り組めるよう、臨床指導者との迅速な対応ができる体制を整える必要がある。

今後も次年度に向けて対象の病態に合わせた看護実践を学ぶことができるように、適宜、臨床指導者と教員間の情報共有と連携を行い、学生の思考の深化につながる指導に取り組んでいく。

13) 成人看護学実習Ⅲ（終末期）：3年次後期

青木和恵、泥谷朋子

人生の終末を生きる対象患者を全人的に理解し、加齢や疾病から生じる苦痛を緩和し、患者が自身の終焉と向き合い、臨終までをより良く生きるための看護実践を学修することを目的とした。臨地実習は国立病院機構災害医療センターで、学内実習は本学部で行った。終末期の医療実践については、医療者が死生観を持つことが大切となる。そこで、特に死生観に関するカンファレンスやディスカッションに力を入れ、学生の死生観の形成に働きかけた。これと並行して、臨床指導者と担当教員の連携によって担当患者の看護過程の展開を指導し、終末期看護という全ての医療に必要となる看護実践を学修できるように図った。また基礎的な知識として、「終末期看護に必要となる知識と技術」および終末期看護に関連の深い「がん看護総論」について講義形式で教授した。全般を通して学生が時間をかけて深く丁寧に学修する思考力の養われる実習となった。今年度は2021年度入学生のカリキュラムとして2名の学生がこの実習を受講した。来年度の受講予定の学生についても、同様の方針と内容で展開する。

14) 老年看護学実習Ⅱ：3年次後期

宗澤紀子、折元美雪、皆田良子

本科目は、高齢者を対象とした看護の実践力を養うことを目的とする臨地実習である。実習は、国立病院機構災害医療センターおよび村山医療センターの2施設で実施した。本年度より、目標志向型思考に基づく看護実践を取り入れ、高齢者の加齢変化や健康課題、入院環境が本人や家族に与える影響を理解する視点、高齢者が望む生活に着目し持てる力を維持・向上させる視点を重視した。さらに、疾患や病態の理解にとどまらず、生活機能の維持・向上や人権の尊重の重要性を理解し、実践できるよう指導した。学生は、実習を通じて高齢者のできること・できていることを観察することの重要性を理解し、その気づきを看護実践に繋げることができていた。今後も、学生が高齢者看護の専門性を高められるよう工夫を続けるとともに、多職種連携の視点とチーム医療の中での高齢者看護の役割をより深く学べるような環境を整え、実践的な学びを支援していきたい。

15) 看護職とキャリア掲載：4年次前期

青木和恵、泥谷朋子

学生が自身のキャリア形成について検討できるようになることを目的とする。まず専門職とは何かを明確にし、次に専門職におけるキャリアの意義、看護職として成長するためのキャリア形成の必要性を解説した。特にキャリアアンカー理論について重点的に解説し、アクティブラーニングとして、学生個々が現時点でどのようなキャリアアンカーを保有しているかを自身で認識するために、エドガー・シャインによるキャリアアンカーの体験診断を行った。そのうえで看護職特有のキャリア形成である看護管理者、特定看護師、診療看護師、専門看護師、認定看護師といった看護専門職の機能、立場、背景、その資格などの取得のプロセスと役割を解説した。また卒後教育としての大学院進学の意味、さらに看護職から発展したさまざまな職業や役割について解説した。まとめとして、担当教員が自身のキャリア形成のプロセス

とキャリア形成に影響を与えた因子をプレゼンテーションし、学生がキャリア形成に関する実践的知識を修得できるようにした。来年度も同様の方針と内容で展開したい。

【小児看護学領域】

教育方針

小児看護学では、子どもの成長発達と子どもと家族を取り巻く環境を理解し、地域社会のあらゆる場面で生活する子どもと家族への健康支援と最善の医療・看護を実践するために、基盤となる知識・技術を修得する。このような支援ができる看護の実践力の育成を目的に、科目は「小児看護学概論」、「小児看護実践論」、「小児看護学実習」で構成している。講義・演習・実習では、子どもと家族の権利を守り、成長・発達段階に応じたかかわり方、子どもによくみられる疾病と治療、健康状態をアセスメントし看護を行うことを学ぶ内容としている。学生が自らの学修を可視化できるようにルーブリック評価を取り入れ、また、学生の興味関心をより高めるために、成育医療研究センタースタッフ・患者家族が講義・演習に参加している。

科目名

1) 災害看護学Ⅰ：1 年生前期

久保恭子、宍戸路佳、濱寄信恵

災害看護学Ⅰでは災害看護に関する基本的知識を理解し、災害時に必要な救急法を学ぶことである。内容は災害看護の定義、災害サイクル、トリアージ、災害時の心のケア、災害サイクルにそった看護、救急法・包帯法である。心のケアでは本学の特徴として整復遺体についてICTを活用した教材を作成し、学習効果の向上を図った。講義スタイルは対面授業と演習を組み合わせた。災害看護に関する基本的知識を学習した後、トリプル災害時の実際の看護、能登半島地震での看護活動を行った看護職の講義に参加し、災害の場や住民感情と看護について想像し、考える機会とした。また、講義後、被災者と学生とのディスカッションにより学びを深めた。次年度は副専攻・災害看護学コースの全体の見直しにそって、本科目では救急法から災害時の自己防災について講義内容を変更することになっている。学生の居住地域における防災対応や地震の防災準備等について学びの機会とする。

2) 小児看護学概論：2 年次後期

久保恭子、土井庄三郎、宍戸路佳、濱寄信恵、非常勤講師

目的は子どもの成長発達と子どもを取り巻く環境を理解し、子どもと家族に適切なケアをすることである。内容は小児医療・看護の歴史的変遷、小児看護の定義、子どもの成長発達、子どもの人権、保健統計の動向と法整備、移行期看護、小児の急変時の看護、発達障害児の看護などで構成した。定型発達と小児のケアについて、特別なニーズのある子どもと家族へのかかわり方について講義と共に、一部の授業では事例をもとに病児や家族の心理と声かけについて想像し看護を考える時間をとった。すべて対面講義とし、一部グループワークや演習を組み入れ、全学生で学びを共有した。学生の学習成果を把握するためルーブリック評価

を導入し、教員も学生の反応を確認しつつ、質問にはタイムリーに対応し、また、学生の学びの状況を把握しながら講義を進めることができた。次年度は学生が苦手とする子どもの発達の中でも反射や認知機能についてより事例や映像教材を活用し、学修を強化していく。

3) 災害ボランティア論：2年次後期

宍戸路佳、久保恭子、濱寄信恵

今年度の履修者は69名であった。科目目標は、医療・保健・福祉に関する事例を通して、ボランティア活動についての理解できる。専門職としてのスキルを生かしたボランティア活動や様々な対象を想定したボランティア活動について考え、ボランティアコーディネーションのあり方を説明できるの2点である。今年度は、東京都の重症心身障がい児・者の療育センターのスタッフをゲストスピーカーに加え、多様な対象の状況と災害時のボランティア活動について講義、グループワーク、シミュレーション演習を交えて理解が深まるように実施した。結果、学生のコメントより、様々な対象のことを想定して考えたことがなかった、シミュレーション演習をとおして傾聴の難しさを知った、この授業をとってよかった等のコメントがきかれた。次年度に向けて、より災害ボランティアのあり方について理解が深まるように工夫をしていく。

4) 小児看護学実践論：3年次前期

久保恭子、土井庄三郎、宍戸路佳、濱寄信恵、非常勤講師

目的は疾病や障害の有無に関わらず、子どもと家族への支援内容を理解し、対象への看護を学ぶことである。授業は対面講義、演習で展開した。講義ではまず、学生が最も苦手とする人体の構造と機能、子どもに多い疾病について講義を実施、その後、各疾患や症状の看護を学ぶという流れにした。疾患看護、看護技術演習については成育医療研究センターのスタッフによる事例を用いた臨場感あふれる内容、最新の医療・看護技術も盛り込んだ演習に繋げた。実習先スタッフによる講義や演習は、実習病院での患児と家族や看護の様子をイメージでき、実習への準備性の高まりを確認できた。学生への学びのフィードバックはWeb classを活用してタイムリーに行った。また、学生の学習成果を把握するためルーブリック評価を導入した。さらに小児看護過程では電子カルテシステム Medi-EYE を使用し、さらには F.CESS を使用した記録を実施した。次年度の課題として、学生が実習でも見学が難しく、実施ができない看護技術である与薬について講義・演習を加えることとした。

5) 小児看護学実習：3年次後期

宍戸路佳、久保恭子、土井庄三郎、濱寄信恵、非常勤講師

目的は子どもの特徴、成長発達、家族のつながりに対する理解を深め、健やかな育ちにつながる子どもの環境を幅広く捉えること、健康・成長発達を促進し、健康障害をもつ子どもと家族に基礎的な看護実践能力を身につけること、子どもと家族を尊重した行動がとれることである。今年度は外来実習場所の変更があったが、小児看護を様々な視点から捉えられるよう実施した。また F.CESS の導入が本格化し、各領域の実習記録用紙の統一により、実習記録へかける時間はさらに短縮することで、子どもや家族と関わる時間や看護を考える時間を多く

持つことができた。しかし子どもの生活や遊び、現在できないことに看護の視点が集中してしまい、疾患、治療、入院の影響や子どもの成長発達状況に結びつけることが難しい学生も多く、指導を要した。子どもの入院期間の短期化に加え受け持つ期間も短いため、実習初日から看護の方向性を確認していたが、来年度は情報収集の段階から看護の方向性が導け、判断して看護につなげられるようにしていく。

6) 看護教育：4 年次後期

久保恭子、宋戸路佳、濱寄信恵

目的は看護教育の歴史的変遷、教育制度、看護教育の現状と課題、看護教育と継続教育、自らのキャリア発達に向けた教育の必要性を理解し、その結果、健康を支援する看護実践力の向上につなげることである。講義内容は近代看護の発展と災害看護・災害や時勢と看護教育、諸外国と日本との看護教育の相違、学習者の特徴と授業設計、クリティカルシンキング、教育の評価や看護教員という仕事等で構成した。各講義時間における内容について講義と演習を組み入れつつ、学生間でのディスカッションを促した。学生の学習成果を把握するためルーブリック評価を導入し、学生への学びのフィードバックは Web class を活用してタイムリーに行った。看護師としての理想と現実、理想に向かってどのような学習が必要なのか、常により看護を提供するためには生涯学習が必要であることを実感する学生が多かった。次年度の課題として、本科目は他の選択科目と内容が類似していることも多くあり、他科目との学習内容の調整、カリキュラムなどの見直しが必要である。

【母性看護学領域】

教育方針

母性看護学では、女性のライフステージ全般にわたる健康の諸問題をリプロダクティブヘルス・ライツの視点から幅広く理解し、看護を実践する上で基盤となる知識を修得する。看護実践力の育成を目指して、科目は母性看護学概論、母性看護学実践論、母性看護学実習から構成している。

妊娠・分娩・産褥・新生児期の母親、新生児とその家族を対象に、健康を維持・増進するために必要な支援方法を修得することを目的としている。

授業は、これまでの学修を活かし、母性看護に関心をもって学修に取り組めるように、個別学習とグループワークを取り入れた。また、演習では非常勤を活用し、単に技術の習得にとどまらず、丁寧にきめ細やかな指導の工夫をして、目標達成ができるように授業を展開した。

科目名

1) 母性看護学概論：2 年次後期

長田恵子、松山妙子、小平明日香、吉田奈々絵、非常勤講師

女性のライフステージ全般にわたる健康の課題をリプロダクティブヘルス・ライツの視点から幅広く理解し、新生児の誕生に伴う新たな家族形成とその健康課題を理解し、看護を実践する

上で基盤となる知識を修得できるように構成した。内容は、リプロダクティブヘルス・ライツ、セクシャリティ、ライフサイクル各期の看護、保健統計の動向、法整備等であった。特に、昨今、社会問題となっている性暴力・性被害、性虐待について、母性看護からの視点から社会問題と学問を意識づける授業展開の試みを行った。知識の定着については、定期試験だけでなくミニテストを実施し、次年度の母性看護実践論につながるよう工夫した。

次年度は、母性看護実践論・母性看護学実習との整合性を検討しながら、形成的な学修ができるように工夫し、学生が母性看護に興味を持てるように講義を展開する。

2) 母性看護実践論：3年次前期

及川裕子、松山妙子、小平明日香、吉田奈々絵、非常勤講師

妊産褥婦及び新生児と家族への支援内容を理解し、援助の方法を学ぶことを目的としている。マタニティサイクルにおける母子・家族についてシームレスに対象理解ができるように工夫した。

講義では、母性看護の理解、興味を持てるように、動画等の教材を用いて行った。また、今年度は新たな試みとして、災害に関する内容について、非常勤講師を招き、母性看護と災害看護に関しての理解を深められる内容を追加した。看護技術の演習では、常勤以外に非常勤を演習教員として招き、技術修得が深められるようきめ細やかに教授した。看護過程の演習では、標準化された記録用紙を活用し、教育用電子カルテを用いて、これまでの学修をもとにウエルネスの視点で対象理解と臨床推論を行い、個別性のある看護を見出せるようグループワークを行った。指導計画の発表会では、活発に意見交換を行い、退院後の生活を見据えた個別性のある指導について思考を深めた。

次年度は、看護技術演習において、臨床指導者を演習非常勤講師として招致し、母性看護学実習につながる臨床に即した演習を実施していきたい。

3) 母性看護学実習：3年次後期

長田恵子、松山妙子、小平明日香、吉田奈々絵、非常勤講師

妊産褥婦及び新生児とその家族の健康課題をウエルネスの視点をもってアセスメントして、健康維持・促進できる看護実践能力や保健医療チームの一員として行動する能力を養うことを目的としている。実習室を開放して実習で実施する技術の練習機会を設け、学生のレディネスを高める工夫をした。産科外来では、妊婦健診の様子や保健指導を学び、産後2週間健診や1か月健診・母乳外来の見学を行い、病棟では褥婦と新生児を受け持ち、看護過程の展開を実施し、可能な限り経陰分娩や帝王切開分娩を見学した。教員は、日々変化する母子の理解と臨床推論、ケアができるよう、臨床指導者と協働しながら学習支援にあたった。また、マタニティサイクルにおける対象をシームレスに理解できるよう、学内日に学びの統合を行い、母性看護学における社会資源の活用や地域との連携など包括的な支援に関して学修が深められるように支援した。

次年度も引き続き実習期間の中で、妊産褥婦の看護についてウエルネスの視点をもって学びを深めていけるようにサポートをしていく。

【精神看護学領域】

教育方針

災害時も含めた様々な日常生活におけるこころの健康とリカバリーの回復・保持・増進を行うための看護に必要な知識・技術・態度を身につけるために、講義と演習を組み合わせることにより総合的に学修できるカリキュラム展開を行っている。

また、学生自身の障害者観を社会情勢も含めた様々な方面から深く検討し、看護職として障害を持つ人々への効果的な支援のあり方について探求し続ける態度を身に着けることを目指している。

科目名

1) 精神保健：2 年次前期

村松 仁、小川賀恵、永澤 眞

精神健康の維持・増進・回復に関する基礎的な知識を学習し、現代社会における精神健康に関する問題・課題について、心理的・社会的・生物学的な視点から理解することを科目の概要として教授した。到達目標として 1. 精神健康の理解、2. 精神の構造と機能の理解、3. 精神の危機とストレスの理解、4. 現代社会における精神保健の理解を到達目標とした。

講義では、こころの健康について、近年の精神保健で重要視されているストレンクスおよびレジリエンスの視点も含めた考え方、精神力動論から捉えたこころの構造と機能、精神健康を脅かす危機とストレス、現代社会における精神保健について講義を行った。講義では、精神保健に関連する実際の出来事(事件)や、著名なアニメーションを教材として活用し、初学者にも馴染みやすくわかりやすい講義展開を心がけた。合わせて、講義内容に関する感想や疑問をミニツレポートとして提出することで、理解の状況把握と疑問に対する回答を行い、講義内容の補完ができた。次年度は、今年度の教育内容を踏襲し、学生の理解が深まるよう講義を行いたいと考えている。

2) 精神看護学概論：2 年次後期

村松 仁、小川賀恵、永澤 眞

精神看護学の目的と対象を理解し、精神看護で用いられる基本的な技術と精神看護の歴史から精神看護における人権擁護を学ぶことを目的とし、1.精神健康と精神を病む体験の理解、2.治療的コミュニケーションの理解、3.精神看護における看護理論、3.精神医療における人権擁護の理解を到達目標として講義を行った。

精神を病む体験を持つ人の理解では、精神障害を持つ当事者の出演した動画を教材として使用し、幻覚や妄想などの精神症状を体験することの実際と、精神症状との折り合いの付け方の実際の理解につなげることができた。また、プロセスレコードの目的・意義および記載方法を説明し、精神看護における治療的コミュニケーションの基本的な理解ができた。また、精神看護における看護理論と看護過程、精神医療における人権擁護の重要性を、歴史的背景および法的な側面から教授した。合わせて、講義内容に関する感想や疑問をミニツレポートとして提出することで、理解の状況把握と疑問に対する回答を行い講義内容の補完ができた。次年度は、今年度の教育内容を踏襲し、学生の理解が深まるよう講義を行いたいと考えている。

3) 精神看護実践論 : 3 年次前期

小川賀恵、村松 仁、永澤 眞、外部講師

障害に関する定義、障害者の対応に関する歴史的・社会的背景と課題を理解し、障害者に対する適切な医療・看護実践のあり方について考察を深めることを目標に講義を行った。講義では、障害の捉えかた、障害を持つ人に対する歴史的な経緯とその課題の検討、障害を持つ人に対するリハビリテーション等について、視聴覚教材やグループディスカッションを活用し、アクティブラーニングを活用しながら障害の持つ意味および障害を持つ人と看護の役割について学生の考察が深まるよう講義を行った。また、今年度は、社会福祉の実践活動から障害を持つ人を支援することについて前田利恵子先生から、また、神経難病における地域医療支援の実践について、小森哲夫先生から講義を頂き、幅広い障害者支援について教授することができた。

次年度は、障害を持つ人の支援について社会的な見地からの考察が深まるよう、内容を検討し講義をしていきたいと考えている。

4) 障害者看護論 : 3 年次後期

村松 仁、小川賀恵、永澤 眞、外部講師

障害に関する定義、障害者の対応に関する歴史的・社会的背景と課題を理解し、障害者に対する適切な医療・看護実践のあり方について考察を深めることを目標に講義を行った。講義では、障害の捉えかた、障害を持つ人に対する歴史的な経緯とその課題の検討、障害を持つ人に対するリハビリテーション等について、視聴覚教材やグループディスカッションを活用し、アクティブラーニングを活用しながら障害の持つ意味および障害を持つ人と看護の役割について学生の考察が深まるよう講義を行った。また、今年度は、社会福祉の実践活動から障害を持つ人を支援することについて前田利恵子先生から、また、神経難病における地域医療支援の実践について、小森哲夫先生から講義を頂き、幅広い障害者支援について教授することができた。

次年度は、障害を持つ人の支援について社会的な見地からの考察が深まるよう、内容を検討し講義をしていきたいと考えている。

5) チーム医療論 : 4 年次後期 (選択必修)

村松 仁、小川賀恵、永澤 眞、外部講師

チーム医療の意義、目的、運用等の基本的知識を理解し、実際のチーム医療を展開している各医療職種(災害医療センター、診療部長、看護部長)を外部講師として招き、医師および看護部長の立場から実際のチーム医療の展開について講義を頂き、実際のチーム医療の展開について理解を深めることができた。

今年度は全て対面で講義を行い、チーム医療の目的・方法およびチームをビルディングに関する講義、合わせて、チーム医療の展開に関する事例検討のグループディスカッションを行った。

本講義で、学生はチーム医療に関する事例の検討と討議を行うことで、チーム医療の展

開についてより深く学習することができた。次年度も今年度の内容継続し、チーム医療に関する学修が深まるように講義を展開したい。

6) 政策医療論：2年次後期

村松 仁、非常勤講師

日本におけるこれからの医療政策の在り方について、医療政策の形成に関する歴史的背景および現在の日本における医療政策に関する諸問題も含めて自己の考えを明確にすることを目的として講義を行った。

その結果、学生は、日本における医療政策の形成、特徴、実際の状況（国立病院機構で行っている事業等）、災害医療の状況等について、非常勤講師による実際の医療政策の現状と課題を学び、これからの日本の医療政策の課題と展望について、考察することができていた。引き続き、次年度も非常勤講師による講義も含め、科目の教育目標が達成される講義を展開したい。

7) 精神看護学実習：3年次後期

小川賀恵、村松 仁、永澤 眞、非常勤講師

精神に障害をもつ人を心理社会的・精神的・身体的側面から全人的に理解し、セルフケアの回復に向けた基本的な看護の検討および技術を身に着けることを目的として、国家公務員共済組合連合会立川病院、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院（病棟・デイケア）、公益財団法人井之頭病院（病棟・デイケア）を実習施設として実習を行った。

実習展開は、精神科病棟と精神科デイケアでの実習を組み合わせ、急性期の入院治療から社会復帰・社会参加期の地域精神保健まで、精神障害を持つ人が治療を受け、回復していく時間軸を意識して精神医療における継続支援について理解できるよう工夫を行った。病棟実習では治療的コミュニケーションを活用しながら対象理解を深め、セルフケアの回復に向けた看護実践の理解ができた。また、精神科デイケアでは地域で生活している精神障害者への支援について、当事者との関わりを通し理解を深めることができた。

次年度も精神科病棟と精神科デイケア実習を組み合わせ、精神障害を持つ人に対する入院と地域生活での全人的な支援の理解が深まるよう、実習を進めて行きたいと考える。

【在宅看護学領域】

教育方針

地域・在宅看護論は、地域包括ケアシステムの構築・推進を念頭に置き、地域で生活する人々と家族を理解し、地域における様々な場での暮らしを支える看護の基礎を学ぶ科目である。地域で暮らしている人は、一時病気で入院・治療が必要になったとしても、治療を終えれば住み慣れた地域に戻っていく。したがって、病院と地域での看護を分断せず、対象となる人や家族が暮らす拠点としての「地域」をまず理解し、様々な場で様々な健康状態にある人々のその人らしい暮らしを支える看護を学べるよう、次期カリキュラム改正を視野に入れ、

各科目構成の大幅な見直しを図った。

さらに、教育の質向上に向け、一部科目において学長裁量経費ならびに看護系大学協会助成金を採択し、老年看護学との科目間連携事業をトライアルで実施した。

科目名

1) 地域・在宅看護学概論：1年次後期

牧千亜紀、岩渕起江、村田加奈子、外部講師

地域・在宅看護が必要とされる社会的背景、基本的理念を理解し、地域の人々の尊厳と権利を守り、多様な場での暮らしと健康を支援する看護の役割・機能について学習することを目的に、講義内容の編成を行った。さらに、その分野に造詣が深いゲストスピーカーを講師に迎え、内容の質向上を図った。次年度は、今年度の授業評価を踏まえ、講義内容の一部見直しを図っていく。

2) 地域・在宅看護学支援論：2年次後期

牧千亜紀、岩渕起江、皆田良子、村田加奈子

在宅療養者とその家族の多様な生活や、地域全体を支える看護やケアのしくみを理解し、地域で暮らす人々とその家族の健康と生活の質の維持・向上を目指した支援の基本とその根拠について学習する。また、多職種連携を基盤としたケアマネジメントや、様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるようにするための地域包括ケアシステムについて、その概念や支援について理解し、生活者の視点から看護の役割・機能を考えることを目的に、講義内容の編成を行った。さらに、「認知症高齢者と家族介護者への支援」について理解を深めるために、老年看護学との科目間連携を取り入れ、内容の質向上を図った。次年度も、今年度と同様の内容で講義を行っていく。

3) 自立支援教育論：2年次後期

牧千亜紀、岩渕起江、村田加奈子、非常勤講師

疾病予防看護学と並行して科目を整理し、2科目を連動させながら講義が展開できるよう見直しを図った。本科目は、健康支援の目的や意義を理解し、健康支援のために必要な理論と、理論を活用した健康支援活動について学習する。さらに、ロールプレイを通して、理論を活用した個別指導の基本的知識・技術を習得することを目的に講義内容の編成を行った。次年度も、今年度と同様の内容で講義を行っていく。

4) 疾病予防看護学：2年次後期

牧千亜紀、岩渕起江、村田加奈子、非常勤講師

自立支援教育論と並行して科目を整理し、2科目を連動させながら講義が展開できるよう見直しを図った。本科目は、健康教育の目的や意義を理解し、多様な場や健康レベル、集団の特性に合った健康教育の企画書・指導案の作成、実施、評価方法について学習する。さら

に、演習を通して、健康教育の基本的知識・技術を習得することを目的に講義内容の編成を行った。次年度も、今年度と同様の内容で講義を行っていく。

5) 地域・在宅看護実践論Ⅰ：3年次後期

牧千亜紀、宗澤紀子、岩渕起江、皆田良子、村田加奈子、非常勤講師、外部講師

本科目は、①地域に暮らす「生活者」を支える看護の特性を理解し、対象者の状態に応じた暮らしと健康を支える看護援助の方法を習得する、②在宅療養者と家族に対する看護過程の目的と特徴を理解し、事例演習を通して、地域・在宅看護過程を展開できる基礎的能力を習得することを目的に学長裁量経費ならびに看護系大学協会助成金を採択し、老年看護学との科目間連携のもと内容を大幅に見直し、実践的取り組みを行った。主な取り組みは、Ⅰ．回復期リハビリテーション病院から退院後、在宅療養に移行する高齢者で、仮想生活空間の中で状況を変化させながら、「学生が対象者の生活をイメージできる」事例を考案した。Ⅱ．実際の生活の場で経時的に変化させた状態を360度カメラで撮影し、生活の場でのシミュレーション演習を実施した。Ⅲ．事例の状態を経時的に変化させ、地域・在宅における看護過程の展開演習を実施した。さらに、ICTを活用した難病療養者とのコミュニケーション支援演習や、ALS療養者及び家族の講話を取り入れるなど、演習内容の質向上を図った。次年度は、今年度の評価を踏まえつつ、さらに発展的取り組みを検討していく。

6) 在宅看護実践論Ⅱ：4年次前期（旧カリキュラム）

牧千亜紀、岩渕起江、堀田昇吾、吉田奈々絵、吉田 茜

本科目は、旧カリキュラムの最終年度であるため、前年度同様の講義内容で実施した。次年度は新カリキュラムとして開講するため、地域・在宅看護学実習との連動性も視野に入れ、演習内容の大幅な見直しを図っていく。

7) 在宅看護学実習：4年次前期（旧カリキュラム）

牧千亜紀、岩渕起江、村田加奈子、非常勤講師

本科目は、旧カリキュラムの最終年度であるため、前年度同様の実習内容で実施した。次年度は、次年度からの新カリキュラム実習に向け、実習目的や内容の大幅な見直しを行い、新規実習施設の開拓を行った。次年度は、新カリキュラム実習の評価を行い、実習内容の質向上に向け、引き続き検討を重ねていく。

8) 看護政策論：4年次後期（選択必修）

牧千亜紀、外部講師

保健・医療・福祉政策および看護政策の動向を踏まえ、政策と政策決定プロセスに関する基本的な構造を理解し、特に看護制度と関連する政策課題へ参画することの意義について学習することを目的に、講義内容を大幅に見直した。さらに、その分野に造詣が深いゲストスピーカーを講師に迎え、講義内容の質向上を図った。次年度も、今年度と同様の内容で講義を行っていく。

7. 業績

【看護基盤領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

- 江津繁, 長田恵子 (2024). 9 章 3 節災害時の組織体制 1 項病院における災害時の組織体制. ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③ 災害看護 (第 5 版): 247-251. メディカ出版, 東京.
- 長田恵子 (2024). 4 章 災害時の支援体制 2 節 災害医療体制 1 項 災害拠点病院, 2 項 医療・保健チーム. ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③ 災害看護 (第 5 版): 83-89. メディカ出版, 東京.
- 酒井明子, 長田恵子, 三澤寿美 (編集) (2024). ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践③ 災害看護 (第 5 版). メディカ出版, 東京.
- 土井庄三郎 (編集, 分担執筆) (2024). 肺高血圧. 小児・成育循環器学 (改訂第 2 版). 診断と治療社, 東京
- 土井庄三郎 (分担執筆) (2024). 小児の心不全 (小児疾患) 今日の診断指針 (第 9 版第 1 刷). 医学書院, 東京
- 土井庄三郎 (分担執筆) (2024). CQ16 小児 PH 診断、CQ17 小児 PH 治療. 肺高血圧症診療ガイドランス 2024. 日本肺高血圧・肺循環学会, 福岡.

2. 論文等（原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料）

- 土井庄三郎. 学校教諭との連携「いのちの授業」～子どもたちの生きる力を育むために～. 「よぼう医学」新年号 2025 WINTER No27:6-9
- 土井庄三郎. 小児 PH 治療の特徴:疫学、診断の観点も含めて. 特集 肺高血圧治療～今どこに進んでいるのか～. Heart View April 2024 Vol.28 No.4:74(382)-79(387)
- 堀田昇吾, 作田裕美, 五十嵐隆元, 岩永秀幸, 市田隆雄, 奥田保男, 白石順二, 上野寿子, 太田勝正, 草間朋子. (2024) 病院における放射線防護教育の実態調査. 日本放射線技術学会誌. 日本放射線技術学会雑誌, 2024, 80 巻, 6 号, p. 626-637,
- Horita S, Ota K, Konishi E, Sugiura N, Sugai K, Kusama T, Criteria for designating nurses as radiation workers in Japan, ICRP 2023 Proceedings (In Press)
- Horita S, Kato T, Sugiura N, Yamaguchi T, Yoshida K, Goto A, Kusama T, Establishment of NuHAT (Nuclear Disaster Health Assistance Team) for nurse-led radiation risk management after the Fukushima nuclear accident, ICRP 2023 Proceedings (In Press)
- Nagashima-Otsuki A, Ishii T, Yamaguchi Y, Hosokawa S, Doi S. Implantable Cardioverter Defibrillator for Primary Prevention in Children With Arrhythmogenic Right Ventricular Cardiomyopathy: A Case Series. Cureus. 2025 Jan 10;17(1): e77253. doi: 10.7759/cureus.77253. eCollection 2025 Jan. PMID: 39931627
- 長田恵子, 小林紀明. 副看護師長に求められる役割尺度の信頼性検証. 東京医療保健大学 紀要 2024; 19(1): 1-9.
- Takaki H, Kitagawa R, Takano T. (2024). Analysis of Chromosome Test Results of 24,175 Miscarried Fetuses in Japan from 2000 to 2021. *Cytogenetic and Genome Research*, 1-8. Advance online publication. <https://doi.org/10.1159/000542086>. PMID: 39447559

3. 学会における発表

- 高野貴子, 北川理恵, 高木晴良. 日本における 2000 年から 2021 年の流産胎児 24,175 例の染色体検査結果の解析. 第 127 回日本小児科学会, 2024 年 4 月 19 日, 福岡
- Takano T, Kitagawa R, Takaki H. Analysis of chromosome test results of 24, 175 miscarried fetuses in Japan from 2000 to 2021. Pediatric Academic Societies. May 3, 2024, Toronto, Canada.
- Doi S, Ishii T, Iishida H, Hosokawa S, Takatsuki S, Uchida K, Inai K, Fukushima H, Kogaki S,

Yamagishi H. Real world data of PH with CHD in Japan -Insights from Japanese association of congenital heart disease with pulmonary hypertension registry (JACPHR)-. Japan-China-Korea Asian Pacific Heart Forum 2024. 2024 年 7 月 12 日, Fukuoka, Japan

Ishii T, Hosokawa S, Sumitomo N, Ishida H, Takatsuki S, Uchida K, Fukushima H, Kogaki S, Yamagishi H, Doi S. Pharmacological treatment for pediatric patients with congenital heart disease with pulmonary hypertension: Insights from nationwide registry in Japan. JCK Asian Pacific Heart Forum 2024, 2024 年 7 月 12 日, Fukuoka, Japan.

土井庄三郎, 齋藤久美, 佐々木昭弘, 佐藤毅, 種市尋宙, 中村蓉子, 田原昌博, 山村健一郎, 山澤弘州, 犬塚亮, 内田敬子. 「生きる力を育む」ために小児循環器学会員と学校との連携授業の実践ー心臓移植を中心にー (パネルディスカッション). 第 60 回日本小児循環器学会学術集会, 2024 年 7 月 13 日, 福岡.

石田秀和, 石井卓, 内田敬子, 細川奨, 高月晋一, 住友直文, 稲井慶, 福島裕之, 小垣滋豊, 山岸敬幸, 土井庄三郎. フォンタン術後遠隔期の肺血管拡張薬は有効なのか? ~これまでのランダム化比較試験と JACPHR 研究より考える~. 第 60 回日本小児循環器学会学術集会, 2024 年 7 月 13 日, 福岡.

石井卓, 内田敬子, 細川奨, 住友直文, 石田秀和, 高月晋一, 小垣滋豊, 福島裕之, 稲井慶, 山岸敬幸, 土井庄三郎. 本邦における先天性心疾患を伴う肺高血圧症に対する薬物治療の現状. 第 60 回日本小児循環器学会学術集会, 2024 年 7 月 13 日, 福岡.

住友直文, 石崎怜奈, 内田敬子, 高月晋一, 石井卓, 石田秀和, 福島裕之, 小垣滋豊, 稲井慶, 土井庄三郎, 山岸敬幸. 二心室修復術後に残存する肺高血圧症の増悪因子に関する検討: report from Japanese Association of CHD-PH Registry. 第 60 回日本小児循環器学会学術集会, 2024 年 7 月 13 日, 福岡.

内田敬子, 住友直文, 石崎怜奈, 福島裕之, 石井卓, 石田秀和, 高月晋一, 小垣滋豊, 稲井慶, 土井庄三郎, 山岸敬幸. 主要体肺側副動脈を伴う区域性肺高血圧症における診断時期と背景疾患による治療効果の検討. 第 60 回日本小児循環器学会学術集会, 2024 年 7 月 13 日, 福岡.

Doi S. Medical treatment for pulmonary hypertension in premature infants based on pathophysiology. 9th Scientific Meeting of Korean Pulmonary Hypertension Society in conjugation with 4th East Asia Society of Pulmonary Hypertension. 2024 年 7 月 19 日, Seoul, Korea.

土井庄三郎, 細川奨, 石井卓, 内田敬子, 石崎怜奈, 福島裕之, 高月晋一, 石田秀和, 小垣滋豊, 山岸敬幸. 先天性心疾患を伴う肺高血圧症レジストリ登録研究 (シンポジウム). 第 9 回日本肺高血圧肺循環学会学術集会, 2024 年 8 月 10 日, 福岡.

石田秀和, 石井卓, 内田敬子, 細川奨, 高月晋一, 住友直文, 稲井慶, 福島裕之, 小垣滋豊, 山岸敬幸, 土井庄三郎. 高肺血管抵抗を有する Fontan 循環の臨床像と治療選択 ~ JACPHR 研究から見えてきたもの ~. 第 9 回日本肺高血圧肺循環学会学術集会, 2024 年 8 月 10 日, 福岡.

内田敬子, 住友直文, 福島裕之, 石井卓, 石田秀和, 高月晋一, 小垣滋豊, 稲井慶, 土井庄三郎, 山岸敬幸. 主要体肺側副動脈を伴う区域性肺高血圧症における治療効果の検討. 第 9 回日本肺高血圧肺循環学会学術集会, 2024 年 8 月 10 日, 福岡.

浅田裕美, 大串晃弘, 堀田昇吾, 作田裕美, 野戸結花, 太田勝正, 市田隆雄, 五十嵐隆元, 西丸英治, 奥田保男, 石田隆行. 病院における放射線防護・安全教育を効果的・効率的に推進する上での影響要因 (第 1 報). ー教育を実施する上での困難ー. 日本放射線看護学会第 13 回学術集会, 2024 年 9 月 14-15 日, 鹿児島.

堀田昇吾, 大串晃弘, 浅田裕美, 作田裕美, 野戸結花, 太田勝正, 市田隆雄, 五十嵐隆元, 西丸英治, 奥田保男, 石田隆行. 病院における放射線防護・安全教育を効果的・効率的に推進する上での影響要因 (第 2 報). ー効率的な教育の運営ー. 日本放射線看護学会第 13 回学術集会, 2024 年 9 月 14-15 日, 鹿児島.

大串晃弘, 浅田裕美, 五十嵐隆元, 川田秀道, 座長: 作田裕美, 堀田昇吾, 病院における放射線防護・安全教育を効果的・効率的に推進する上での影響要因. 日本放射線看護学会第

13 回学術集会, 2024 年 9 月 14-15 日, 鹿児島。

大串晃弘, 堀田昇吾, 浅田裕美, 作田裕美, 野戸結花, 太田勝正, 市田隆雄, 五十嵐隆元, 西丸英治, 奥田保男, 石田隆行. 病院における放射線防護・安全教育を効果的・効率的に推進する上での影響要因(第 3 報). 一教育を効果的に行う工夫—. 日本放射線看護学会 第 13 回学術集会, 2024 年 9 月 14-15 日, 鹿児島。

Takano T, Kitagawa R, Takiguchi M, Takaki H. Analysis of chromosome test results of 24,175 miscarried fetuses in Japan from 2000 to 2021 – maternal age effect –. 第 69 回日本人類遺伝学会, 2024 年 10 月 11 日. 札幌。

長田恵子, 高木晴良, 藤村朗子, 堀田昇吾. 医療安全教育における Virtual Reality 教材の有用性評価. 第 44 回日本看護科学学会学集会 2024 年 12 月 7 日. 熊本。

長田恵子. 医療安全推進における医療の質のアウトカムを考える パネル討論会企画・座長. 医療安全推進学会 第 1 回学術総会 2025 年 1 月 16 日. 東京。

坂本実優, 井原結衣, 尾形花, 黒台菜美子, 榊原史織, 藺田莉々香, 鈴木ゆあ, 高橋美空, 奈倉結菜, 廣岡萌依, 細野真優花, 堀越麻央, 吉田茜, 堀田昇吾, 高木晴良. 災害時の停電による電子カルテ使用不能時に備えた対策の実態 ～看護管理責任者の視点から～. 第 30 回日本災害医学会総会・学術集会, 2025 年 3 月 7 日. 愛知。

Doi S, Ishii T, Uchida K, Kogaki S, Yamagishi H. Japanese association of congenital heart disease with pulmonary hypertension registry (JACPHR) study approved by Japan agency for medical research and development (AMED). 2025 年 3 月 22 日, Guangzhou, China.

4. 研究助成および研究成果報告書

堀田昇吾. 看護における放射線安全文化の醸成を目指した ICT を活用した教育ツールの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金, 若手研究. 2023 年度-2026 年度。

作田裕美, 坂口桃子, 中尾富士子, 堀田昇吾, 西山美香. 臨床放射線看護における先駆的看護実践に関する検討-Action Research 法による試み. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (C). 2023 年度-2026 年度。

高野貴子, 高木晴良. 妊娠を希望する人々への基礎データの提供 一流産胎児の染色体異常の解析—. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (C). 2021 年度-2024 年度。

土井庄三郎 (研究代表), 石井卓, 内田敬子, 住友直文, 石崎怜奈, 石田秀和, 細川奨, 高月晋一, 福島裕之, 稲井慶, 小垣滋豊, 山岸敬幸. 先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究, 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 難治性疾患実用化研究事業, 2021 年度-2024 年度。

土井庄三郎 (研究分担), 阿部勝巳, 犬塚亮, 鮎澤衛, 山岸敬幸, 五十嵐岳宏. 小児心電図 AI 診断サポートシステム研究 (GRAIPE): 学校心臓検診における小児心電図の異常検知 AI 研究. 日本小児循環器学会課題研究, 2023 年度-

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

長田恵子

- 1) 日本看護協会認定看護師制度委員会. 委員.
- 2) 日本医療安全推進学会. 代議員.
- 3) 日本医療安全推進学会. 理事.
- 4) 日本医療安全推進学会. 医療事故調査部会委員.
- 5) 立川警察署協議会委員.
- 6) 一般社団法人日本災害看護学会第 27 回年次大会大会長.
- 7) 日本医療安全推進学会第 3 回学術総会共同大会長.

土井庄三郎

- 1) 日本小児循環器学会関連: 監事兼名誉会員, 学会と教育の連携委員会, 未来予想図委員会オブザーバー, 小児循環器医療 DX 推進ワーキング.

- 2) 日本肺高血圧肺循環学会関連: 名誉会員, 小児循環器連携委員会アドバイザー, 国際交流委員会委員, 肺循環研究部会委員.
- 3) 日本小児科学会関連: 専門医制度管理委員会委員, 小児医療提供体制委員会委員, 小児領域サブスペ連絡評議会委員.
- 4) 日本循環器学会関連: FJCC.
- 5) 日本心臓病学会関連: FJCS.
- 6) NPO 法人肺高血圧症レジストリ (JAPHR)運営会議委員.
- 7) 東京循環器小児科治療 Agora (小児循環器東京都地方会)会長.
- 8) 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 専門委員.
- 9) 東京都予防医学協会学校保健専門委員 (心臓病).
- 10) 東京都医師会都立学校心臓検診判定委員会委員.
- 11) マシテンタン小児国内治験プロジェクトアドバイザー (ヤンセンファーマ株式会社).
- 12) 国立名誉院長会会員.
- 13) 「いのちの授業(ゲストティーチャー) 人の体のつくりと働き～脳死は人の死か～」. 筑波大学附属小学校. 2025 年 1 月 29 日. 東京.
- 14) 看護系大学 1 年生への「いのちの授業」実践報告. 「いのちの授業づくりプロジェクト」第 4 回勉強会. 2024 年 6 月 29 日. 東京.
- 15) 学校心臓検診における小児心疾患の見つけ方. 2024 年度東京都予防医学協会勉強会. 2024 年 7 月 31 日. 東京.
- 16) 学校教諭との連携「いのちの授業」～子どもたちの生きる力を育むために～. 学校保健セミナー(オンデマンド配信). 2024 年 12 月 16 日. 東京.
- 17) 肺高血圧症 2024 up-to-date～world symposium, guideline and registry～. 肺高血圧治療地域連携講演会. 2024 年 11 年 2 日. 東京.
- 18) 東京都予防医学協会, 東京都医師会. 学校心臓一次, 二次検診心電図読影.
- 19) 学校心臓二次検診診察. 東京都予防医学協会保健会館.
- 20) 東京科学大学非常勤講師 (客員教授).
- 21) 国立病院機構災害医療センター非常勤医師.
- 22) 医療法人社団時正会佐々総合病院非常勤医師.
- 23) 小児循環器医療 DX ワーキング(学校心臓検診).
- 24) PMDA 専門協議委員.
- 25) AMED 班研究代表「先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究」.

高木晴良

- 1) 生物統計学. 早稲田大学教育学部. 2024 年 4 月-7 月.
- 2) 統合実習 (医療情報). 帝京大学医学部. 2024 年 6 月-7 月.
- 3) 健康管理論. 岐阜県立看護大学. 2024 年 10 月-2025 年 1 月.
- 4) 保健医療福祉行政論. 亀田医療大学. 2024 年 8 月.
- 5) 専任教員研究研修研究技法 (量的研究). 2024 年 12 月 25 日, 26 日.
- 6) 特別セミナー SPSS を使った統計処理 基礎編 I & II. 杏林大学. 2024 年 9 月.
- 7) 特別セミナー SPSS を使った統計処理 応用編 I & II. 杏林大学. 2025 年 3 月.
- 8) 日本災害看護学会 第 27 回年次大会 実行委員

堀田昇吾

- 1) 日本放射線看護学会. 理事
- 2) 日本放射線看護学会. 広報・渉外委員会 副委員長.
- 3) 日本放射線看護学会. 学術推進委員会 副委員長.
- 4) 日本放射線看護学会. 査読委員.
- 5) 日本保健物理学会. コミュニケーション委員会 論文紹介グループ.
- 6) 日本看護系大学協議会 (JANPU). 災害連携教員.
- 7) 日本災害看護学会. 第 27 回年次大会 事務局.

- 8) 一般社団法人日本災害看護学会 第 27 回年次大会 企画委員.
- 9) 日本災害看護学会 第 27 回年次大会 実行委員.
- 10) 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 人材育成センター「第 5 回放射線看護アドバンス課程」講師. 2025 年 2 月 5 日.

吉田茜

- 1) 日本災害医学会. 評議員.
- 2) 日本災害医学会. 広報委員.
- 3) 日本災害医学会. セミナー委員.
- 4) 日本災害看護学会. 第 27 回年次大会 実行委員.
- 5) 日本臨床救急医学会. 緊急度判定体系のあり方に関する検討委員会委員.

6. 上記以外その他 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

土井庄三郎(分担執筆). CQ16 小児 PH 診断, CQ17 小児 PH 治療. 肺高血圧症診療ガイドライン 2024 (2024). 日本肺高血圧・肺循環学会, 福岡.

【基礎看護学領域】

1. 著書 (翻訳書を含む)

片岡大己, 馬渡美香 (2024). 【細かい手順は動画で確認! 整形外科の看護技術 成功のコツ・NG の理由】(5 章) 下肢の看護技術 THA 後の清潔援助, 整形外科看護, 2024 冬季増刊, 169-174, メディカ出版, 大阪

片岡大己, 馬渡美香 (2024). 【細かい手順は動画で確認! 整形外科の看護技術 成功のコツ・NG の理由】(5 章) 下肢の看護技術 下肢術後・THA 後の排泄介助, 整形外科看護, 2024 冬季増刊, 175-180, メディカ出版, 大阪

2. 論文等 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

川島悠, 熊谷たまき (2024). 看護基礎教育上のシミュレーション教育におけるファシリテーターのファシリテーション技術:ナラティブレビュー. 日本看護科学会誌, 44 巻,830-840.

大塚風舞希, 天野未悠, 大森清茄, 尾崎未那美, 原由佳, 藤巻美優, 前知里, 山中沙耶, 山梨貴和子, 渡邊彩, 綿貫杏, 伊東朋子, 岩満裕子, 菅野由貴子(2005). 避難所運営時の段ボールベッドの導入状況に関連する要因の検討〜平成 30 年から令和元年の大規模災害での指定避難所運営経験者を対象とした調査〜. 東京医療保健大学紀要, Vol.19(1), *in print*.

3. 学会における発表

松谷弘子, 塩見直子, 小田初美, 岡村眞喜子, 鈴木美和, 宮崎志穂, 滝本悦子. 首都圏の小児専門病院における看護師の離職の影響要因. 第 28 回日本看護管理学会学術集会, 2024 年 8 月 23 日, 名古屋.

塩見直子, 松谷弘子, 岡村眞喜子, 小田初美. 首都圏の大学病院に勤務する新卒看護師のバーンアウト. 第 28 回日本看護管理学会学術集会, 2024 年 8 月 23 日, 名古屋.

川島悠. 看護基礎教育上のシミュレーション教育におけるファシリテーターのファシリテーション技術の検討, 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 2024 年 12 月 7 日, 熊本城ホール.

4. 研究助成および研究成果報告書

川島悠. INACSL に基づくファシリテーター教育プログラム (e-ラーニング) の開発と検討. 基盤研究 (C). 2022 年度-2024 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等，学会や行政関連の役員，地域貢献，非常勤講師等）

岩満裕子

- 1) 公益財団法人東京福祉保健財団 認定看護管理者セカンドレベル ストレスマネジメント・タイムマネジメント. 講師 群馬県看護協会. 2024年8月6日.
- 2) 公益財団法人東京福祉保健財団 認定看護管理者セカンドレベル コンフリクトマネジメント. 講師. 国際医療福祉大学. 2024年6月1日.
- 3) 公益財団法人東京福祉保健財団 認定看護管理者ファーストレベル チームマネジメント. 講師. 埼玉県看護協会. 2024年12月14日.
- 4) 公益財団法人東京福祉保健財団 認定看護管理者セカンドレベル ストレスマネジメント・タイムマネジメント. 講師. 埼玉県看護協会. 2024年6月8日.
- 5) 公益財団法人東京福祉保健財団 認定看護管理者ファーストレベル チームマネジメント. 講師. 埼玉医科大学. 2024年9月13日.
- 6) 公益財団法人東京福祉保健財団 認定看護管理ファーストレベル グループマネジメント. 講師. 2024年9月18日, 19日, 20日.
- 7) 公益財団法人東京都福祉保健財団 認定看護管理者研修教育課程. 委員.
- 8) ネットワーク研修会 人間理解の視点から働きたくなる職場づくり. 東京都ナースプラザ共催. 2025年2月21日.

菅野由貴子

- 1) 日本クリニカルパス学会. 評議員

川島悠

- 1) 日本看護シミュレーションラーニング学会. 専任査読委員, 研修企画委員.
- 2) 第6回日本看護シミュレーションラーニング学会 (JaNSSL) 学術集会. 実行委員.

渡邊はる美

- 1) 独立行政法人国立病院機構災害医療センター ストーマ外来支援. 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程受験対策指導.

6. 上記以外その他（原著，総説，短報，実践報告，資料以外の紙上発表等）

なし

【成人老年看護学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

青木和恵 (2025). がん終末期の褥瘡ケア. 真田弘美監修. 石澤美保子, 玉井奈緒編集. 終末期の褥瘡. 100-113, 南山堂, 東京.

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

藤巻知美, 荒木暁子, 櫻井敬子, 大田えりか (2024). 発達障害とアレルギー疾患を併せもつ子どもの問題と親の疾患管理, 負担や対処に関するスコーピングレビュー. 日本小児看護学会誌, 33, 70-78.

糸川 紅子, 青木 和恵, 増田 誠一郎, 井上 善行, 新田 純子 (2024). カペシタビン療法患者の「手足症候群セルフモニタリング法 (仮)」による症状・QOL の変化. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 28 (1), 94-101.

Satoh M, Sato N, Tamura N, Fujimura A. Psychological safety in enhancing the competence of nurse educators among early career nursing faculty in Japan: A cross-sectional study.

3. 学会における発表

- 松山妙子, 小川賀恵, 藤村朗子. 臨地実習における実習記録の電子化への挑戦～教学マネジメントの視点から～. 交流セッション, 日本看護学教育学会第 34 回学術集会, 2024 年 8 月 19 日-10 月 14 日, オンデマンド配信, 東京. (Web)
- 佐藤みほ, 藤村朗子, 佐藤菜保子. 看護師のアセスメントのコツを紐とき言語化する. 交流セッション, 第 34 回日本看護学教育学会, 2024 年 8 月 19 日-10 月 14 日, オンデマンド配信, 東京. (Web)
- 櫻井敬子, 青木由紀子, 仁田麻由美, 牛窓加奈, 吉田奈々絵. 透析室見学を取り入れた臨地実習の取り組み-看護系大学と連携実習施設のシームレスな教育の実践報告. 第 34 回日本看護学教育学会学術集会, 2024 年 8 月 20 日. 東京.
- 鵜野澄世, 黒田史彦, 中道ゆう子, 西本加月香, 内田浩江, 折元美雪, 一色潤子, 貝瀬雅弘. 看護基礎教育と卒後教育の繋がりを考える Vol.5 一緒に考えて語ろう 臨床判断能力育成と思考発話, 第 34 回日本看護学教育学会学術集会, 2024 年 8 月 20 日, 東京.
- 藤村朗子, 穴戸路佳, 小川賀恵, 中村博子, 阿部八千代, 椎名美智子, 吉元倫子, 堀田昇吾, 松山妙子, 川島悠, 荻田明子. 看護学実習における教学マネジメントと教育 DX の新たな展開. 交流集会, 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 2024 年 12 月 7 日, 熊本.
- 泥谷朋子. 看護師の疲労代替指標の夜勤前後における変動並びに疲労度との関連. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 2024 年 12 月 7 日, 熊本.
- 小川賀恵, 松山妙子, 藤村朗子, 田野将尊, 中村博子, 阿部八千代, 椎名美智子, 吉元倫子. 臨床指導者の看護学生へのコミュニケーション教育の実態. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 2024 年 12 月 7 日, 熊本.
- 長田恵子, 高木晴良, 藤村朗子, 堀田昇吾. 医療安全教育における Virtual Reality 教材の有用性. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 2024 年 12 月 7 日, 熊本.
- 田野将尊, 藤村朗子, 樋口幸子. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行後における新人看護師の看護技術習得の実情と課題. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 2024 年 12 月 8 日, 熊本.
- 森本悦子, 小原弘子, 宗澤紀子, 湯浅幸代子, 片岡純. 一般病院で治療中の後期高齢がん患者を支援する外来看護師に求められる看護実践能力の具体の抽出. 第 39 回日本がん看護学会学術集会, 2025 年 2 月 23 日, 札幌.
- 清水咲希, 小川穂乃花, 神尾雛架, 川久保桃葉, 河内咲来, 河部滯, 久保田瑠, 込山愛理, 添田絢子, 多田ひなた, 三沢遥斗, 渡邊愛, 渡邊ひより, 櫻井敬子, 藤村朗子, 泥谷朋子. 都内に通勤通学する都民の首都直下地震への備えの実態. 第 30 回日本災害医学会総会・学術集会記念大会, 2025 年 3 月 6 日, 愛知.

4. 研究助成および研究成果報告書

- 牧千亜紀, 宗澤紀子, 皆田良子. 科目間連携による発展型データベース・シミュレーション教育の構築, 学長裁量経費. 2024 年度.
- 松山妙子, 小川賀恵, 藤村朗子. 看護学実習における臨床指導者の看護教育 DX への準備性の検討. 学長裁量経費. 2024 年度.
- 小川賀恵, 永澤眞, 村松仁, 藤村朗子. 実習病院と連携した精神看護学の VR (virtual reality) 教材作成. 学長裁量経費. 2024 年度.
- 佐藤みほ, 宮川祥子, 井庭崇, 佐藤菜保子, 藤村朗子. 看護師のアセスメントプロセスの可視化に基づく AI を活用した学習支援システムの開発. 科学研究費助成事業 基盤研究 (C). 2021 年度-2024 年度.
- 佐藤みほ, 徳永友里, 佐藤菜保子, 榊原圭子, 藤村朗子. 看護人材の成長とキャリア継続をめざした「仕事における向上」を高めるモデルの構築. 科学研究費助成事業 基盤研究 (B). 2024 年度-2028 年度.

5. 社会貢献（学会以外の講演等，学会や行政関連の役員，地域貢献，非常勤講師等）

青木和恵

- 1) 認定看護師教育課程 論文の書き方. 静岡県県立静岡がんセンター. 非常勤講師. 2024 年 7 月 16 日.
- 2) 認定看護師教育課程 WOC ケア概論. 静岡県県立静岡がんセンター. 非常勤講師. 2024 年 7 月 16 日.
- 3) 認定看護師教育課程 皮膚のアセスメントとケア-Human interface 概論-. 静岡県県立静岡がんセンター. 非常勤講師. 2024 年 8 月 6 日.
- 4) ストーマケア研修会. 独立行政法人国立病院機構 災害医療センター看護部. 講師. 2024 年 6 月 26 日.
- 5) ストーマケア研修会. 独立行政法人国立病院機構 災害医療センター看護部. 講師. 2024 年 7 月 17 日.
- 6) ストーマケア研修. 会独立行政法人国立病院機構 災害医療センター看護部. 講師. 2024 年 8 月 23 日.
- 7) 日本褥瘡学会. 学術委員会. 用語検討作業委員会委員.
- 8) 日本褥瘡学会褥瘡認定師.
- 9) 日本がん看護学会. 代議員.
- 10) 日本がん看護学会. 査読委員.

藤村朗子

- 1) 日本クリティカルケア看護学会. 専任査読委員.
- 2) 日本エンドオブライフケア学会. 編集委員.
- 3) 日本クリティカルケア看護学会. 利益相反委員会.
- 4) 日本救急看護学会. 国際交流委員会.
- 5) 日本看護学会－急性期看護－. 論文選考委員.
- 6) 国家公務員共済組合連合会立川病院 看護研究指導員.
- 7) 日本救急看護学 倫理委員会 救急看護倫理セミナー(中級). ファシリテーター. 2024 年 6 月 29 日.
- 8) 第 26 回日本救急看護学会学術集会 シンガポール高度実践看護師から学ぶ～救急看護実践に活かそう～日本救急看護学会国際交流委員会. 企画・教育講演. 2024 年 11 月 18 日.
- 9) 第 26 回日本救急看護学会学術集会 外国人対応に有益なサービスの導入と外国語対応ニーズの高まりに対する工夫. パネルディスカッション座長. 2024 年 11 月 19 日.
- 10) 第 27 回日本災害看護学会学術集会. 企画委員, 実行委員会委員長.

宗澤紀子

- 1) 老年看護学. 文京学院大学. 非常勤講師. 2025 年 1 月 10 日.

櫻井敬子

- 1) 日本看護学会. 査読委員.

折元美雪

- 1) 日本糖尿病教育・看護学会. 専任査読者.
- 2) 地域交流会. NPO 法人誠仁会主催. 企画事務局. 2024 年 8 月 17 日.
- 3) 納涼会. 学生ボランティア顧問. 社会福祉法人 奉優会目黒区高齢者センター. 2024 年 8 月 24 日.

泥谷朋子

- 1) 災害看護学. 筑波大学医学医療系 非常勤講師. 2024 年 7 月 1 日-8 月 31 日.
- 2) 一般社団法人日本救急看護学会. 評議員.

- 3) 一般社団法人日本救急看護学会. 災害看護委員会.
- 4) 一般社団法人日本救急看護学会. 査読委員.
- 5) 一般社団法人日本救急看護学会. 災害看護初期対応セミナー. インストラクター.
- 6) 一般社団法人日本救急看護学会. 第 26 回学術集会「令和6年能登半島地震における急性期の看護実践」交流集会. 企画,運営.

6. 上記以外その他（原著，総説，短報，実践報告，資料以外の紙上発表等）

なし

【小児看護学領域】

1. 著書(翻訳含む)

なし

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

- 日比野直子, 久保恭子, 中北裕子 (2024). 災害支援の経験から得た想定外の状況を想定する力を醸造するために必要な要素の明確化. 日本健康医学会雑誌 33 (1). 108-115.
- 濱寄信恵, 宍戸路佳, 久保恭子 (2025). 短報: 都内市民による地域防災活動団体と専門職が協力して作る防災イベントの過程. 家族保健研究会誌, 3 (1). 印刷中.
- 今井充子, 及川裕子, 久保恭子, 坂口由紀子, 宍戸路佳, 小平明日香, 濱寄信恵 (2024). 3 歳以下の第 1 子のみを持つ共働き夫婦の家事育児の協働状況の特徴 共働き世帯と専業主婦世帯の比較より. 日本健康医学学会誌, 33 (1), 82-90.
- 久保恭子, 坂口由紀子, 宍戸路佳 (2024). 親亡き後、在宅重症心身障がい者の生活・自立への移行過程の概念化と支援, 家族保険研究, 3 (1).
- 久保恭子, 坂口由紀子, 濱寄信恵他 (2025). 渡航心臓移植児と親の日常生活のエスノグラフィー. 家族保健研究会誌, 3 (1). 印刷中.
- 斎藤治子, 久保恭子 (2025). 看護専門学校3年生のリスク感性の実態と課題. 東京都立看護専門学校紀要, 12 (1). 印刷中.
- 坂口由紀子, 久保恭子 (2024). 難病児（者）のきょうだい児の現状と支援の課題. 家族保健研究会誌, 3 (1).
- 佐藤保子, 久保恭子 (2025). 中堅看護教員が語る、自己の成長を感じた経験. 東京都立看護専門学校紀要, 12 (1). 印刷中.
- 坂口由紀子, 久保恭子 (2025). 母親から見た遺伝性稀少難病児（者）のきょうだい児への心理、社会的影響と支援の課題. 家族保健研究会誌, 3 (1). 印刷中.
- 宍戸路佳, 久保恭子, 坂口由紀子, 玄順烈 (2024). 親亡き後、在宅重症心身障がい者の居場所の移行と自立に向けた支援プログラムの考案. 家族保険研究会誌, 3 (1).

3. 学会における発表

- 久保恭子, 坂口由紀子, 宍戸路佳, 濱寄信恵. 稀少遺伝性難病児の家族が遺伝リスクを巡り抱く困難と支援の現状・課題. 第 71 回日本小児保健学会, 2024 年 6 月 22-23 日, 北海道札幌市.
- 坂口由紀子, 久保恭子. 母親から見た遺伝性稀少難病児（者）のきょうだい児への心理・社会的影響と支援の課題. 第 71 回日本小児保健学会, 2024 年 6 月 22-23 日, 北海道札幌市.
- 浅野翔, 内田花梨, 久保恭子. 未就学児を持つ親の水害対策の現状と課題. 第 71 回日本小児保健学会, 2024 年 6 月 22-23 日, 北海道札幌市.
- 久保恭子, 坂口由紀子. カンナビノイド製剤の治験を巡る在宅難治性てんかん患者と家族の体験と課題. 第 6 回日本在宅医療連合学会 2024 年 7 月 20-21 日, 千葉県千葉市.
- 宍戸路佳, 久保 恭子, 濱寄信恵. 未就学児を持つ養育者の災害に対する備えの状況. 第 26 回日本災害看護学会 2024 年 8 月 31-9 月 1 日, 大阪府茨木市.
- 久保恭子, 宍戸路佳, 坂口由紀子. 遺伝性稀少難病児の親が親の会への参加における利点と

課題. 第 65 回日本母性衛生看護学会, 2024 年 10 月 18-19 日, 宮崎県宮崎市.
久保恭子, 穴戸路佳, 濱寄信恵, 坂口由紀子. 在宅重症心身障がい児(者)の経管栄養による栄養・健康管理-母親のケアから-. 第 44 回日本看護科学会 2024 年 12 月 7-8 日, 熊本県熊本市.
穴戸路佳, 久保恭子, 坂口由紀子. ROHHAD 症候群児の乳幼児期から学齢期の症状と看護の. 課題. 第 44 回日本看護科学. 2024 年 12 月 7-8 日, 熊本県熊本市.

4. 研究助成および研究成果報告書

岸田泰子, 久保恭子(分担). 倫理的問題を含む高度生殖医療における看護教育およびケア指針の作成. 基盤研究 (C). 2019 年度-2024 年度.
坂口由紀子, 久保恭子 (分担). 在宅難病児 (者)の移行期支援とコーディネートにおける役割の明確化. 基盤研究 (C). 2022 年度-2025 年度.
岸田泰子, 久保恭子(分担). 迅速かつ簡便な月経状況測定ツールを用いた青年期女性への健康支援戦略の検討. 基盤研究 (C). 2023 年度-2026 年度.
久保恭子. 稀少遺伝性難病の遺伝リスクを巡る心的回復・心的成長の過程と看護モデルの構築. 基盤研究 (C). 2024 年度.
久保恭子. 在宅酵素補充療法を巡る在宅医療・訪問看護の実際と課題. なな一訪看護研究助成プロジェクト. 2024 年 8 月-2025 年 8 月.
久保恭子, 穴戸路佳, 濱寄信恵. 災害時の看護実践を語り継ぐ『伝承者・語り手』と『継承者・つなぎ手』の相互作用がもたらす効果～伝承者・語り手についての研究～. 学長裁量費. 2024 年度.
久保恭子. 研究者教育表彰賞 研究部門 受賞. 2024 年度.

5. 社会貢献(学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

久保恭子

- 1) 公開講座 地域住民を対象とした健康イベント「手洗い教育とせっけんづくり」. 小児領域, 2024 年 8 月 26 日.
- 2) 公開講座 子育てヨガと健康相談の実施. ヨガ指導と育児相談. 月 2-4 回
- 3) 公開講座 MECF2 重複症候群児と家族のためのヨガとおしゃべりタイム. 会の運営進行. 月 1 回 (第 2 金曜日).
- 4) 公開講座 ROHHAD 症候群児と家族のためのヨガとおしゃべりタイム. 会の運営進行. 月 1 回 (第 3 金曜日).
- 5) MECF2 重複症候群患者会交流集会- MECF2 症候群児の抱える症状と対策. 講師. 2024 年 10 月.
- 6) ① MECF2 重複症候群 ② ROHHAD 症候群 の患者家族会.
- 7) 日本災害看護学会. 評議員.
- 8) 日本ムコ多糖症患者会. 顧問.
- 9) 診療看護師等育成.
- 10) 子どもの虐待防止学会. にいがた理事.
- 11) 日本小児看護学会誌. 査読委員.
- 12) 一般財団法人 診療看護師等医療従事者育成支援協会. 監事.
- 13) 診療看護師等医療従事者育成支援協会 (NupMep). 運営.
- 14) 日本ムコ多糖症患者会顧問 患者会. 運営.
- 15) 日本ムコ多糖症研究会運営サポート 日本ムコ多糖症患者交流会. 会の運営. 2024 年 8 月 16 日
- 16) 埼玉県レアスマイル (難病児の集まり)運営. 2024 年 11 月 2 日.
- 17) 日本災害看護学会 27 回大会. 企画委員会委員, 事務局委員.
- 18) カリキュラム検討委員会. 全学教務委員会. 委員.
- 19) 全学倫理委員会, 東が丘立川倫理小委員会. 委員.
- 20) 統合入試・推薦入試・一般入試試験監督.
- 21) 卒業生の海外留学の支援、卒業生の海外・国内での大学院進学支援 等

- 22) 田柄福祉園 夏祭りボランティア. 会場準備と運営手伝い. 2024 年 7 月 6 日.
- 23) NPO 法人 とும்ろう ボランティア. 養成講座支援 アドバイザー. 2024 年 9 月 20 日.
- 24) 公開講座「シュタイナーの星づくり」. 会の運営サポート. 2024 年 12 月 5 日.

宍戸路佳

- 1) 公開講座 地域住民を対象とした健康イベント「手洗い教育とせっけんづくり」. 小児領域. 2024 年 8 月 26 日.
- 2) 公開講座 子育てヨガと健康相談の実施. ヨガ指導と育児相談. 月 2-4 回.
- 3) 公開講座 MEC2 重複症候群児と家族のためのヨガとおしゃべりタイム. 会の参加. 月 1 回 (第 2 金曜日).
- 4) 公開講座 Zoom にて ROHHAD 症候群児と家族のためのヨガとおしゃべりタイム. 会の参加. 月 1 回 (第 3 金曜日).
- 5) MEC2 重複症候群患者会交流集会にて講演. MEC2 症候群児の抱える症状と対策. 講師手伝い. 2024 年 10 月.
- 6) ① MEC2 重複症候群 ② ROHHAD 症候群 の患者家族会. メディアを通じた情報発信, HP の作成支援, 各種団体から厚生労働省等への要望書等の作成の支援.
- 7) 日本ムコ多糖症研究会運営サポート 日本ムコ多糖症患者交流会. 会の運営. 2024 年 8 月 16 日.
- 8) 埼玉県レアスマイル (難病児の集まり) 運営. 2024 年 11 月 2 日.
- 9) 第 27 回日本災害看護学会学術集会. 企画委員会委員, 事務局委員.
- 10) グループホームとும்ろう顧問 看護アドバイザー.
- 11) 日本アディクション看護学会編集委員.
- 12) カリキュラム検討委員会. 全学教務委員会. 委員.
- 13) 統合入試・推薦入試・一般入試の試験監督を担当.
- 14) 田柄福祉園 夏祭りボランティア. 2024 年 7 月 6 日.
- 15) NPO 法人 とும்ろう ボランティア養成講座支援. アドバイザー. 2024 年 9 月 20 日.
- 16) 公開講座「シュタイナーの星づくり」. 立川看護学部. 会の運営サポート. 2024 年 12 月 5 日.

濱寄信恵

- 1) 公開講座 地域住民を対象とした健康イベント「手洗い教育とせっけんづくり」. 立川看護学部小児領域. 2024 年 8 月 26 日.
- 2) 公開講座 子育てヨガと健康相談の実施. ヨガ指導と育児相談. 月 2-4 回.
- 3) 公開講座 Zoom にて MEC2 重複症候群児と家族のためのヨガとおしゃべりタイム. 運営補助. 月 1 回 (第 2 金曜日).
- 4) 公開講座 Zoom にて ROHHAD 症候群児と家族のためのヨガとおしゃべりタイム. 運営補助. 月 1 回 (第 3 金曜日).
- 5) MEC2 重複症候群患者会交流集会にて講演. 運営補助. MEC2 症候群児の抱える症状と対策. 2024 年 10 月.
- 6) ① MEC2 重複症候群 ② ROHHAD 症候群 の患者家族会. メディアを通じた情報発信, HP の作成支援, 各種団体から厚生労働省等への要望書等の作成の支援.
- 7) 日本ムコ多糖症患者会. 顧問.
- 8) 日本ムコ多糖症患者会. 顧問, 患者会運営.
- 9) 日本ムコ多糖症研究会. 日本ムコ多糖症患者交流会. 運営サポート, 会の運営. 2024 年 8 月 16 日.
- 10) 埼玉県レアスマイル (難病児の集まり) 運営. 2024 年 11 月 2 日.
- 11) 統合入試・推薦入試・一般入試の試験監督.
- 12) 田柄福祉園 夏祭りボランティア. 会場準備と運営手伝い. 2024 年 7 月 6 日.
- 13) NPO 法人 とும்ろう ボランティア養成講座支援. アドバイザー. 2024 年 9 月 20 日.
- 14) 公開講座「シュタイナーの星づくり」. 立川看護学部. 運営手伝い. 2024 年 12 月 5 日.

6. 上記以外その他（原著、総説、短報、実践報告、資料以外の紙上発表等）

なし

【母性看護学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

なし

2. 論文等（原著、総説、短報、研究報告、実践報告、資料）

今井充子，及川裕子，久保恭子，坂口由紀子，穴戸路佳，小平明日香，濱寄信恵（2024）.
3 歳以下の子どもを持つ共働き夫婦の家事育児の協働状況の特徴—共働き世帯と専業主
婦世帯の比較より—．日本健康医学会雑誌，33（1），82-90.

松山（山上）妙子，齋藤益子（2025）. 小学校 6 年生から高校 1 年生相当の女子の父母を対
象とした HPV ワクチンに対する意識調査．日本生殖心理学会誌，10（2），31-38.

3. 学会における発表

増子麻里，飯島聖香，板倉佳子，小平明日香，澤村真美，山田美津枝．災害時、要配慮者
である母子の支援を考える—災害時母子支援マニュアルを通して関係機関との連携を中
心に—．第 80 回日本助産師学会，2024 年 5 月 18 日，東京．

松山妙子，小川賀恵，藤村朗子．臨地実習における実習記録の電子化への挑戦～教学マ
ネジメントの視点から～．日本看護学教育学会第 34 回学術集会，2024 年 8 月 19 日，東
京．

松山妙子，齋藤益子．菅井敏行，三嶋廣繁．小学校 6 年生から高校 1 年生相当の女子の
父母を対象とした HPV ワクチンに対する意識調査．第 65 回日本母性衛生学会総会・学
術集会，2024 年 10 月 19 日，宮崎．

松山妙子，齋藤益子，菅井敏行，川名敬，三嶋廣繁．COVID-19 流行下における性行動の
実態調査．第 37 回日本性感染症学会学術大会，2024 年 12 月 1 日，沖縄．

藤村朗子，穴戸路佳，小川賀恵，中村博子，阿部八千代，椎名美智子，吉元倫子，堀田
昇吾，松山妙子，川島悠，荏田明子．看護学実習における教学マネジメントと教育 DX の
新たな展開．第44 回日本看護科学学会学術集会，2024 年 12 月 7 日，熊本．

小川賀恵，松山妙子，藤村朗子，田野将尊．臨床指導者の看護学生へのコミュニケーション
教育の実態．第 44 回日本看護科学学会学術集会，2024 年 12 月 7 日，熊本．

望月秀真，今出川芽，岩城波琉，岩間遥香，内野亜裕未，奥山菜々美，河野友里，小暮
千紘，佐藤結佳子，崩口愛純，戸板心桜，松村果朋，松山妙子，小平明日香．初産婦の
災害に関する情報源と避難行動への備えの実態および災害自己効力感との関連．第 29
回日本災害医学会総会・学術集会，2025 年 3 月 8 日，愛知．

4. 研究助成および研究成果報告書

松山妙子，小川賀恵，藤村朗子．看護学実習における臨床指導者の看護教育 DX への準
備性の検討．2024 年度学長裁量経費．2024 年 6 月-2025 年．

5. 社会貢献（学会以外の講演等，学会や行政関連の役員，地域貢献，非常勤講師等）

松山妙子

1) 非常勤講師「ラダーⅡを対象とした看護過程の展開について（講義）」，東京西徳洲会病院，
2024 年 8 月 21 日，9 月 2 日．

2) 非常勤講師「ラダーⅡを対象とした看護過程の展開について（演習）」，東京西徳洲会病院，
2024 年 9 月 27 日．

3) 非常勤講師「看護研究」，蕨戸田市医師会看護専門学校，2024 年 4 月～5 月

4) インストラクター，「日本救急医学会認定 ICLS コース」，埼玉県総合医局機構地域医療教
育センター，2024 年 9 月 16 日．

- 5) 非常勤講師「成人看護学概論」，蕨戸田市医師会看護専門学校，2024 年 12 月～2025 年 2 月．
- 6) 日本助産診断実践学会 常任幹事 編集委員．
- 7) 一般社団法人日本母子看護学会 常任幹事 会計委員．
- 8) 一般社団法人日本生殖心理学会 評議員．
- 9) 一般社団法人日本災害看護学会第 27 回年次大会企画委員会事務局委員，実行委員．
- 10) 第 39 回東京母性衛生学会学術セミナー 実行委員．
- 11) 第 7 回日本助産診断実践学会学術集会 実行委員．
- 12) 第 25 回日本母子看護学会学術集会 実行委員．
- 13) 医療法人社団 埼玉会 埼玉草加病院 看護アドバイザー．

小平明日香

- 1) 高校生ふれあい講座．さいたま市思春期保健事業．2024 年 7 月 28 日．
- 2) 親子災害講座「災害がくる前に」．さいたま市子育て支援センター．講師．2024 年 9 月 15 日．2025 年 2 月 2 日．
- 3) 「避難所における妊産婦・乳幼児への配慮」．さいたま市避難所開設担当者会．プラザイースト．講師．2024 年 10 月 20 日．11 月 10 日．
- 4) 「避難所における妊産婦・乳幼児への配慮」．さいたま市避難所開設説明会．さいたま市立新開小学校．講師．2024 年 10 月 20 日，11 月 10 日．
- 5) 埼玉県助産師会 災害対策委員．
- 6) 埼玉県助産師会さいたま市地区 監事．
- 7) 埼玉県助産師会さいたま市地区 災害対策委員．

6. 上記以外その他（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料以外の紙上発表等）

なし

【精神看護学領域】

1. 著書（翻訳書を含む）

森千鶴，田中留伊（編著），小川賀恵（分担執筆）（2024）．ストレングスに着目した精神看護学（関連図を用いた事例展開編），第 4 章精神疾患の理解と看護 11. PTSD の理解と看護，精神看護出版．東京．

森千鶴，田中留伊（編著），村松仁（分担執筆）（2024）．ストレングスに着目した精神看護学（関連図を用いた事例展開編），コラム サーカディアンリズムと睡眠障害，精神看護出版．東京．

2. 論文等（原著，総説，短報，研究報告，実践報告，資料）

なし

3. 学会における発表

茅根寛子，渡辺純一，田野将尊，佐藤美保，小川賀恵，浅沼瞳．実習指導者と教員とで「共に創る」これからの精神看護学実習．第 34 回日本精神保健看護学会学術集会，2024 年 6 月 2 日，成田．

藤村朗子，穴戸路佳，小川賀恵，中村博子，阿部八千代，椎名美智子，吉元倫子，堀田昇吾，松山妙子，川島悠，荻田明子．看護学実習における教学マネジメントと教育 DX の新たな展開．第 44 回日本看護科学学会学術集会，2024 年 12 月 7 日，熊本．

小川賀恵，松山妙子，藤村朗子，田野将尊，吉元倫子，阿部八千代，中村博子，椎名美智子．臨床指導者の看護学生へのコミュニケーション教育の実態．第 44 回日本看護科学学会学術集会，2024 年 12 月 7 日，熊本．

折田彩南，鵜飼姫菜，大泉千鶴，大野奈津，大政亜実，大屋遥己，尾方梨紗，大日方美穂，川怜愛，中西葵，馬場莉音，松崎廉，吉野梨沙，小川賀恵，永澤眞，村松仁．地域で生活する精神障害者における 防災マニュアルの認知と関連要因．第 43 回日本社会精神医学会，2025 年 3 月 14 日，東京．

4. 研究助成および研究成果報告書

小川賀恵. 地域生活を送る精神疾患患者の心理的災害耐性を高める防災・発災手帳の作成. 日本学術振興会科学研究費補助金, 若手研究, 2020 年度-2024 年度.
宮島多映子, 村松仁, 中村朋子, 土井一浩. Miyajima 式腹部圧迫法の臨床応用-PhaseⅢの拡大-. 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究(C). 2018-2024 年度.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

村松仁

- 1) 公益財団法人大学基準協会評価者 候補者. 東京都立看護専門学校へ立川看護学部の DX/ICT の取り組みの紹介. FD 委員会. 2025 年 2 月 20 日.

小川賀恵

- 1) 東京都立看護専門学校へ立川看護学部の DX/ICT の取り組みの紹介. FD 委員会. 2025 年 2 月 20 日.

永澤眞

- 1) 東京都立看護専門学校へ立川看護学部の DX/ICT の取り組みの紹介. FD 委員会. 2025 年 2 月 20 日.

6. 上記以外その他(原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

小川賀恵 (2024). メディカコンクール 第 114 回看護師国家試験対策テスト第 1 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成.

【在宅看護学領域】

1. 著書 (翻訳含む)

牧千亜紀 (2024). 公衆衛生看護技術 5 章家庭訪問による支援の実例事例 2: 筋萎縮性側索硬化症の療養者・家族への支援. 標準保健師講座 2. 160-167, 医学書院, 東京.

2. 論文等 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料)

なし

3. 学会における発表

岩渕起江. 救急搬送における高齢者の意思決定に関する文献検討. 第 7 回日本エンドオブライフケア学会学術集会, 2024 年 10 月 13 日, 石川.

牧千亜紀. 筋萎縮性側索硬化症の情動調節障害に焦点を当てた国内外の研究動向. 第 44 回日本看護科学学会学術集会, 2024 年 12 月 7 日, 熊本.

牧千亜紀, 村田加奈子. 女性多発性硬化症病者の療養生活と育児への思い. 第 13 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2025 年 1 月 4 日, 愛知.

4. 研究助成および研究成果報告書

牧千亜紀. 日本難病看護学会. 多発性硬化症看護養成事業. 田辺三菱製薬医学教育助成. 2024 年度.

牧千亜紀, 宗澤紀子, 皆田良子. 科目間連携による発展型データベース・シミュレーション教育の構築. 学長裁量経費. 2024 年度.

牧千亜紀. 地域とつながる看護教育のための Web 教材及び教育体制の充実整備. 看護系大学協会助成金. 2024 年度.

5. 社会貢献 (学会以外の講演等, 学会や行政関連の役員, 地域貢献, 非常勤講師等)

牧千亜紀

- 1) 多発性硬化症看護養成事業. 日本難病看護学会事業. 企画, 講師. 2024 年度.

- 2) 市民公開講座. 脳を活性化して“生涯健康な脳”を維持しよう!. 企画, 講師. 2024 年 11 月 9 日.
- 3) 地域健康教育 (出前講座). フラダンスで健康づくり. 講師. 市内地域包括支援センター. 2025 年 1 月 11 日.
- 4) 慶応義塾大学看護医療学部非常勤講師
- 5) 山形県立保健医療大学客員研究員

岩渕起江

- 1) 特別講義高齢者施設体験学習. 明治薬科大学特別講義. 2024 年 9 月 23 日.
- 2) 臨床と研究をつなぐティーサロン. 第 7 回日本エンドオブライフケア学会学術集会. 2024 年 10 月 14 日.
- 3) 市民公開講座. 脳を活性化して“生涯健康な脳”を維持しよう!. 会場, 進行補助. 2024 年 11 月 9 日.
- 4) 地域健康教育 (出前講座). フラダンスで健康づくり. 市内地域包括支援センター. 2025 年 1 月 11 日.
- 5) 日本エンドオブライフケア学会の研究活動推進委員会. 研究知見の整理ワーキング委員.
- 6) 立川市西砂学習館内立川市一番町傾聴クラブ顧問.

村田加奈子

- 1) 市民公開講座. 脳を活性化して“生涯健康な脳”を維持しよう!. 広報, 会場, 進行補助. 2024 年 11 月 9 日.
- 2) 地域健康教育 (出前講座). フラダンスで健康づくり. 市内地域包括支援センター. 2025 年 1 月 11 日.

6. 上記以外その他 (原著, 総説, 短報, 研究報告, 実践報告, 資料以外の紙上発表等)

牧千亜紀 (2025). 訪問看護師向け Web メディア「NsPace」, 難病看護のエキスパートが伝える訪問看護実践集 (分担執筆), 多発性硬化症: 対話による支援で孤立させないかわり. 照林社.